



本書には車の正しい取り扱い方法と運行前点検、定期点検について説明してあります。

車の取り扱いを十分ご存じの方も、この車独自の装備、取り扱いがありますので、ぜひ一読いただき、安全快適なバイクライフをお楽しみください。

これだけは知っておきましょう

名称と操作	3
運転と操作	9
運行前点検、6カ月定期点検	22
やさしい点検と整備	23
仕様諸元、電装配線図	35
	45

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は万一取り扱いを誤ると重大な事故やトラブルの原因となります。ご使用前に本書を必ずお読みください。
また、整備手帳、セーフティ・ガイド(バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス) も是非お読みください。

本書では正しい取り扱い及び点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



注意

身体や生命に危害を及ぼすと予想される事故を未然に防ぐための必要な事項を示してあります。



注意

部品や商品に損傷を与えないための必要な事項を示してあります。



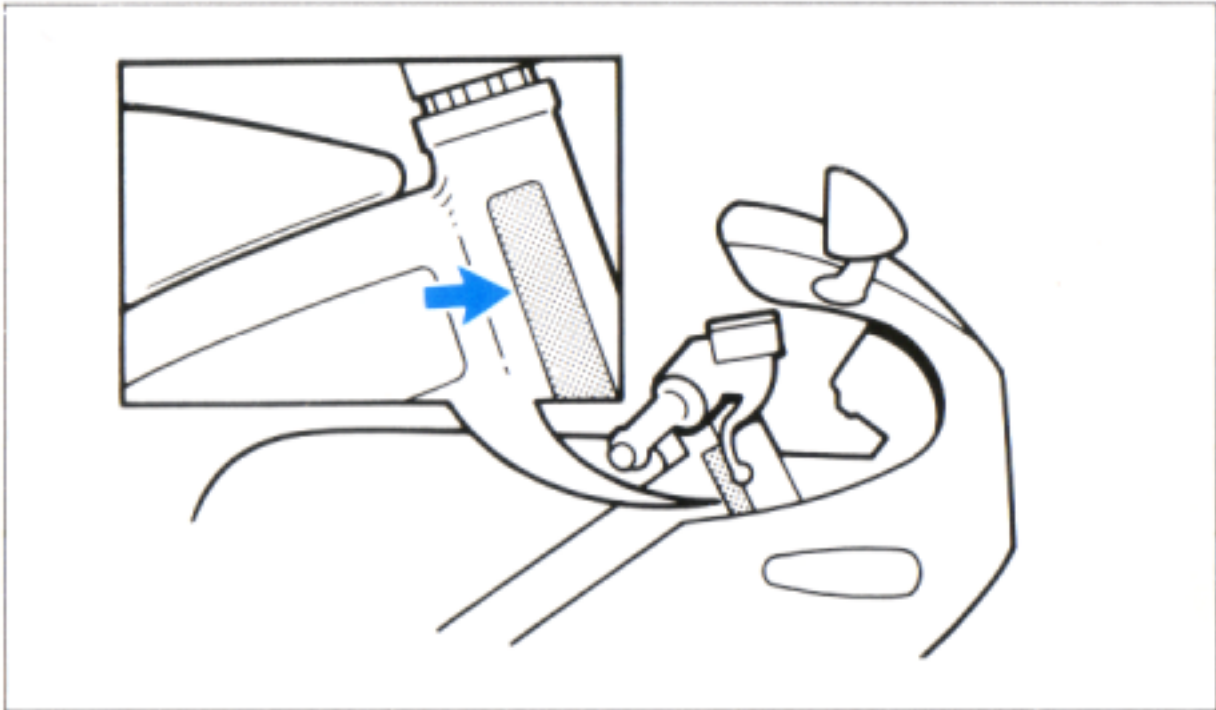
要点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- *車をゆずられる場合、次の持主のために本書を保管しておいてください。
- 仕様の変更などにより図や内容が一部実車と異なる場合がありますのでご了承ください。

車台番号打刻位置

アフターサービスなどについてのご相談に對し的確な判断・処理をするために車名および車台番号(フレームナンバー)を正確にご連絡ください。
尚、フレームナンバーはフレームヘッドパイプ右側に打刻されています。



あなたのお車の

車名は	TZR250
車台番号は	3MA—

(車台番号はご自分でご記入ください。)

目 次

これだけは知っておきましょう…	P 3
必ず守るべき注意ポイント……………	P 3
安全運転のためのチェックポイント…	P 4
必ず知っておきたい	
ライディングテクニック……………	P 5
愛車のためのチェックポイント…………	P 6
お車の手入れのチェックポイント……	P 7
ヤマハ純正オイルは	
車の寿命をのばします……………	P 8
名称と操作……………	P 9
各部の名称……………	P 9
スピードメータ……………	P11
オドメータ……………	P11
タコメータ……………	P11
ニュートラルランプ……………	P12
フラッシュパイロットランプ…	P12
水温計……………	P12
オイル警告灯……………	P12
速度警告灯……………	P12
スイッチの操作……………	P13
メインスイッチ……………	P13
ハンドルロック……………	P13
パッシングライトスイッチ ……	P15
ディマスイッチ……………	P15
フラッシュスイッチ……………	P15
ホーンスイッチ……………	P15
エンジンストップスイッチ ……	P16
ライトスイッチ……………	P16
各部の操作……………	P17
フュエルコック……………	P17
ガソリンの給油……………	P18
オートループオイルの補給 ……	P18
シートの取り外し方……………	P19

シートの取り付け方……………	P19
ヘルメットホルダ……………	P19
サービスツール……………	P20
書類入れ……………	P20
始動装置……………	P20
ブレーキレバー……………	P21
乾式クラッチ……………	P21
運転と操作……………	P22
エンジンのかけ方……………	P22
運行前点検……………	P23
運行前点検, 定期点検の実施…………	P23
運行前点検(高速走行前点検)……	P23
6か月定期点検……………	P27
6か月定期点検……………	P27
やさしい点検と整備……………	P35
ブレーキの調整……………	P35
ブレーキ液の補給……………	P35
ミッションオイルの補給…	P36
クラッチレバーの調整……………	P36
フェアリング……………	P37
エアクリーナの清掃……………	P38
冷却水……………	P38
サスペンションセッティング……	P40
フロントフォーク……………	P40
リヤクッション……………	P40
ドライブチェーンの給油……………	P41
ヒューズ……………	P42
タイヤの点検……………	P43
バッテリー……………	P43
定期交換部品について……………	P44
仕様諸元……………	P45
電装配線図……………	P46

これだけは知っておきましょう

A00501

必ず守るべき注意ポイント！



あなたの安全を守るため、交通ルールを守り安全運転を心がけてください。



ガソリンやオイルの給油時は危険ですので絶対に火気を近づけないでください。



マフラーは熱くなります。人が触れない場所に止めてください。また歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



盗難予防のため、車から離れるときはハンドルロックをかけキーを抜いてお持ちください。



事故や故障を防ぐため、法令で定められた1日1回ご使用前に行う運行前点検と、法令で定められた6か月、12か月ごとに行う定期点検は必ず実施してください。



自賠責保険(共済)に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。また契約の期限切れに注意しましょう。



違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪化させたり排気音を大きくしたりし、ひいては車の寿命を縮めることになります。また車の保証が受けられませんので改造はしないでください。



他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるために、昼間でもヘッドライトを点灯して走りましょう。また、対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

A00601

安全運転のためのチェックポイント！

忘れていませんか？

安全運転は正しい服装から



できるだけ明るい色の動きやすい服装で体の露出が少ないものを着用してください。疲労を少なくし万一の転倒時に体を保護します。

また、すその広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキやチェンジ操作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなります。靴も、かかとの低い運動しやすいものを選んでください。

ヘルメットはS、S GまたはJISマークのあるものを必ず着用してください。頭にシッカリ合って圧迫感のないものが最適です。

U00100

注意



同乗者も必ずヘルメットをかぶってください。

S00101

注意



運転免許証、自賠責保険証は必ずお持ちください。

A00700

守っていますか？

乗車定員は2名です。

必ず守ってください。

尚、免許取得後1年未満の運転者は法令で2人乗りはできません。

A00902

固定していますか？

荷物はしっかりと固定してください。



荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。

荷物はしっかりと固定し積み過ぎないように注意してください。

A01000

危険はありませんか？

建物の中でエンジンをかけないでください。

屋内の閉めきったせまい場所でエンジンをかけると排気ガスによりガス中毒を起こす危険があります。

やむをえない場合は、必ず換気を良くしてください。

U00200

注意

排気ガスには一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所、しめきった狭い場所での始動、暖機運転は絶対にしないでください。

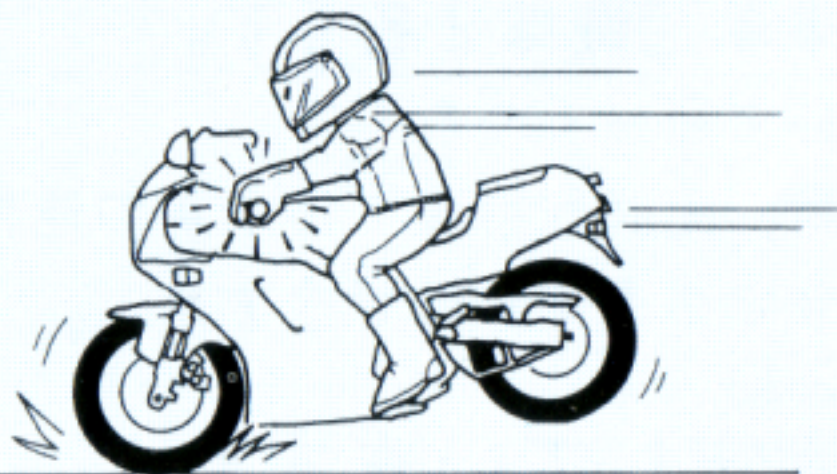
これだけは知っておきましょう

A01100

必ず知っておきたいライディングテクニック！

A01200

ブレーキ使用上の注意



急ブレーキをかけますと横すべりや転倒の原因となります。

やむをえない場合以外は急ブレーキを使用しないでください。

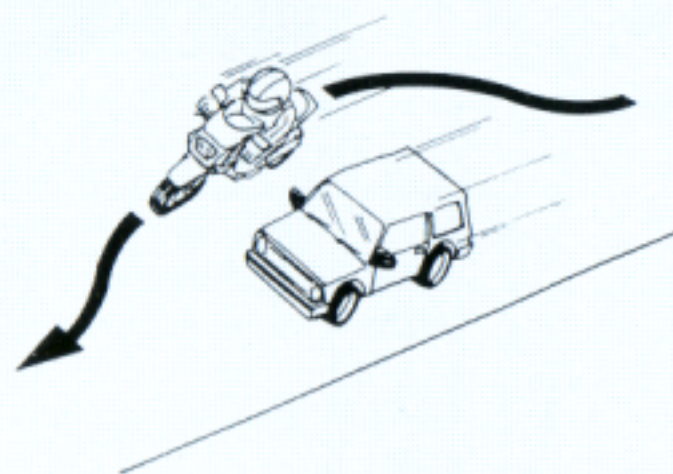
雨の日や路面がぬれているところ、雪道や凍った道路ではブレーキ制動力が低下し晴天時よりブレーキ停止距離が長くなり、路面が滑りやすいので速度を落として余裕をもって運転してください。

長い坂道を下る場合に連続的なブレーキ操作は、ブレーキのオーバーヒート（フェード現象※1）の原因となるのでエンジンブレーキ（※2）と断続的なブレーキ操作を併用してゆっくり下ってください。

※1 「フェード現象」とは、ブレーキの摩擦面が加熱されると摩擦力が減るので、同じ力でブレーキを作動させてもブレーキの効きが悪くなる現象。

※2 「エンジンブレーキ」とは、走行中、スロットルグリップを戻したときにかかるブレーキ力。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

追い越しをするときは



追い越しするときなど強力な加速が必要なときは、シフトダウン（減速）をすると加速力が得られます。あまり高い速度で行なうと、エンジンの回転が上がりすぎてエンジン、ミッションに悪影響を与えます。

S00200

⚠注意

急激なシフトダウンは、走行安定性をそこない転倒などの原因となりますので注意してください。

A01400

洗車後や水たまりを走行した後は ブレーキを軽く作動させ 効き具合を確認してください。

洗車後あるいは水たまり走行後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りをかわかしてください。



A01700

愛車のためのチェックポイント！

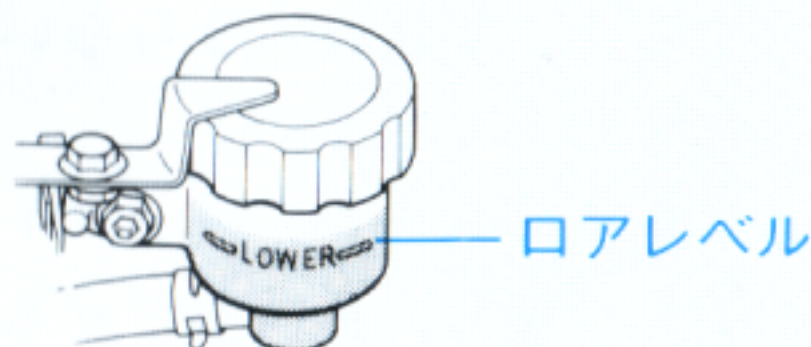
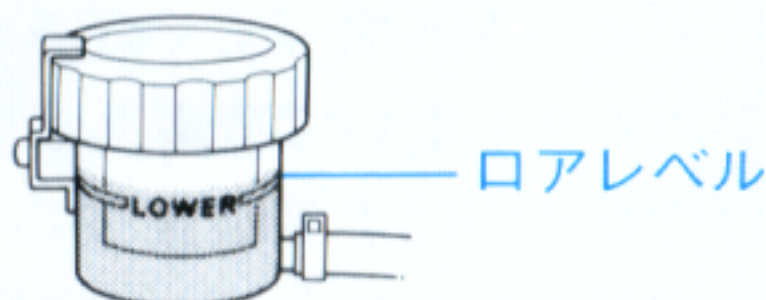
自己流のエンジン調整、
部品の取り外しは行なわない。

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



A01800

こんなときはヤマハ販売店で
点検を受けてください。



1. いつもと違うおかしい音や臭いがするとき。
2. ブレーキ液が不足しているとき。
3. 駐車してあった地面に油が漏れたあとが残っているとき。

A01900

タイヤを新品と交換するときは。

異なった種類のタイヤを使用したり、
指定サイズ以外のタイヤを使用すること
は車の安全走行に悪影響をおよぼし
ますので絶対にさけてください。



A02000

ならし運転は必ず行ない
ましょう。

初回 1 か月目 (または 1,000km 走行時)
の点検まではならし運転をしてください。

ならし運転中はエンジン回転数を 5000
rpm 以下で走行してください。

また不必要なからふかしや急加速、急
減速は、つつしんでください。

ならし運転を行なうと車の寿命を延ば
します。

これだけは知っておきましょう

A02100

お車の手入れのチェックポイント！

いつまでも愛車を長持ちさせるため手入れをしてください。すみずみまで掃除すれば普段気付かない異状箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもつながります。

洗車

泥等の汚れは早いうちに洗車してください。そのとき、エアクリーナ、マフラ、電装品等に水が入らないように注意してください。洗車後は、乾いた布を使って、水分をふき取ってください。グリスなどの給油も忘れずに。コンパウンドの入ったワックスはプラスチック部分を傷つけますので使用しないでください。



A02300

フェアリングの取り扱い

ご使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けられているか、取り付けにガタがないか点検してください。
- スクリーンの清掃はキズを付けないように中性洗剤を使い、多量の水をかけながら柔らかい布かスポンジで洗ってください。
洗剤を使った後は十分水洗いし柔らかい布等で水をふき取ってください。
- スクリーンにはアルカリ性及び強酸性等のクリーナー、ガソリン、シンナー、ブレーキ液その他の溶剤をつけないでください。

- スクリーンのひび割れしたものは使用しないでください。
- フェアリングとハンドルの上に物を置くとハンドル操作ができなくなる場合があります。
物をおかないでください。

A02201

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

週に1度位は中性洗剤でスポンジを使って洗ってください。

(工場用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシ等は傷がつくので使わないこと。)

洗浄後は十分に水洗いして必ず乾いた布で水分をよくふき取ってください。長時間手入れをしないで放置しますと表面だけでなく内部まで腐食してしまい、もとの美しさを失うこととなりますので、手遅れにならないように手入れをしてください。

アルミフレーム、キャストホイールを美しく保ち、長持ちさせるために次の注意をぜひお守りください。

- 縁石などへの乗り上げはキャストホイールのリムに傷をつけやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食することがありますので海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、直ちに水洗いをしてください。
- アルミフレーム、キャストホイールの修正使用はしないでください。

ヤマハ純正オイルは車の寿命をのばします

あなたのお車に使用するオイルの品質により、大切な車の寿命が大きく左右されます。

①オートループオイルスーパーR

高性能化する2サイクルエンジンに最適なオイルです。(分離給油用=ゴールド)

2サイクルの理想を求めた高純度化学合成油を採用し、潤滑性が高く、燃焼性の良いオイルです。

②オートループスーパーオイル

ヤマハの2サイクルエンジンにはヤマハオートループスーパーオイル(分離給油用=緑色)が最適です。

オートループスーパーオイルはヤマハ2サイクルエンジンのために開発されたオイルです。

③ギヤオイル

2サイクル用：極圧性がよく、油膜強度が強く、酸化安定性にすぐれ、ベアリングの腐食や摩耗を防ぐアワ立ち性がきわめて少ない特性を持っています。

④4サイクルオイルエフェロG

⑤4サイクルオイルエフェロZ

⑥4サイクルオイルエフェロFX

⑦4サイクルオイルエフェロX

⑧ME-7(ロングライフクーラント)

過酷なコンディションでこそ真価を発揮する強力な防錆、防食力と安定した不凍冷却効果があります。

⑨ヤマハサスペンション&フォークオイル

低温流動に優れ、安定した減衰力を発揮する、オートバイフロントフォーク専用開発された高級オイルです。

⑩ブレーキフルード

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性の優れた高品質のブレーキフルードです。

⑪ドライブシャフトオイル

⑫ワックス(ユニコンカークリーム)

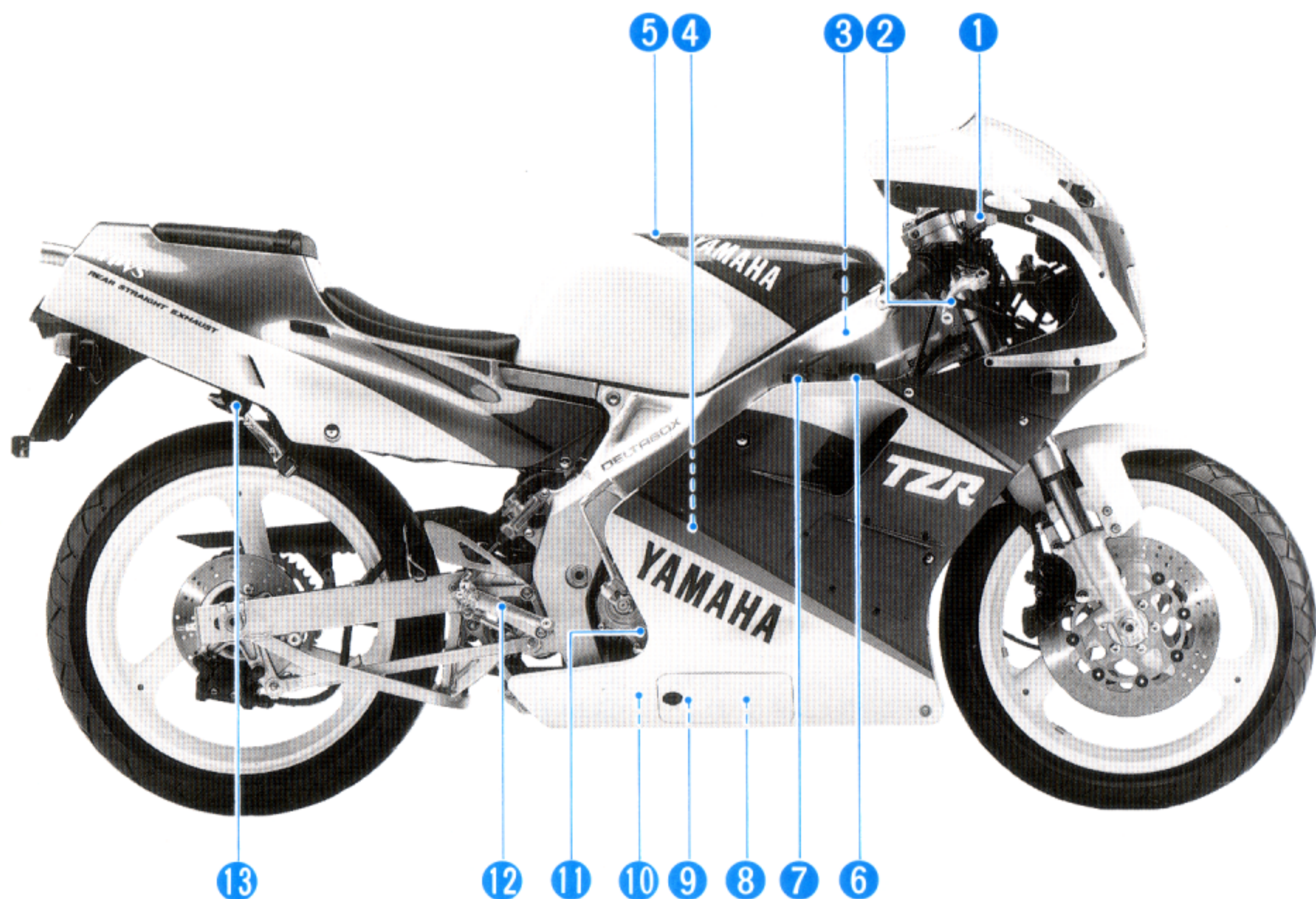
⑬ME-1(防錆潤滑剤)

防錆、潤滑、防湿、浸透性に優れた金属保護液です。

色字で記入しているものは、TZR250に使用するオイル類です。



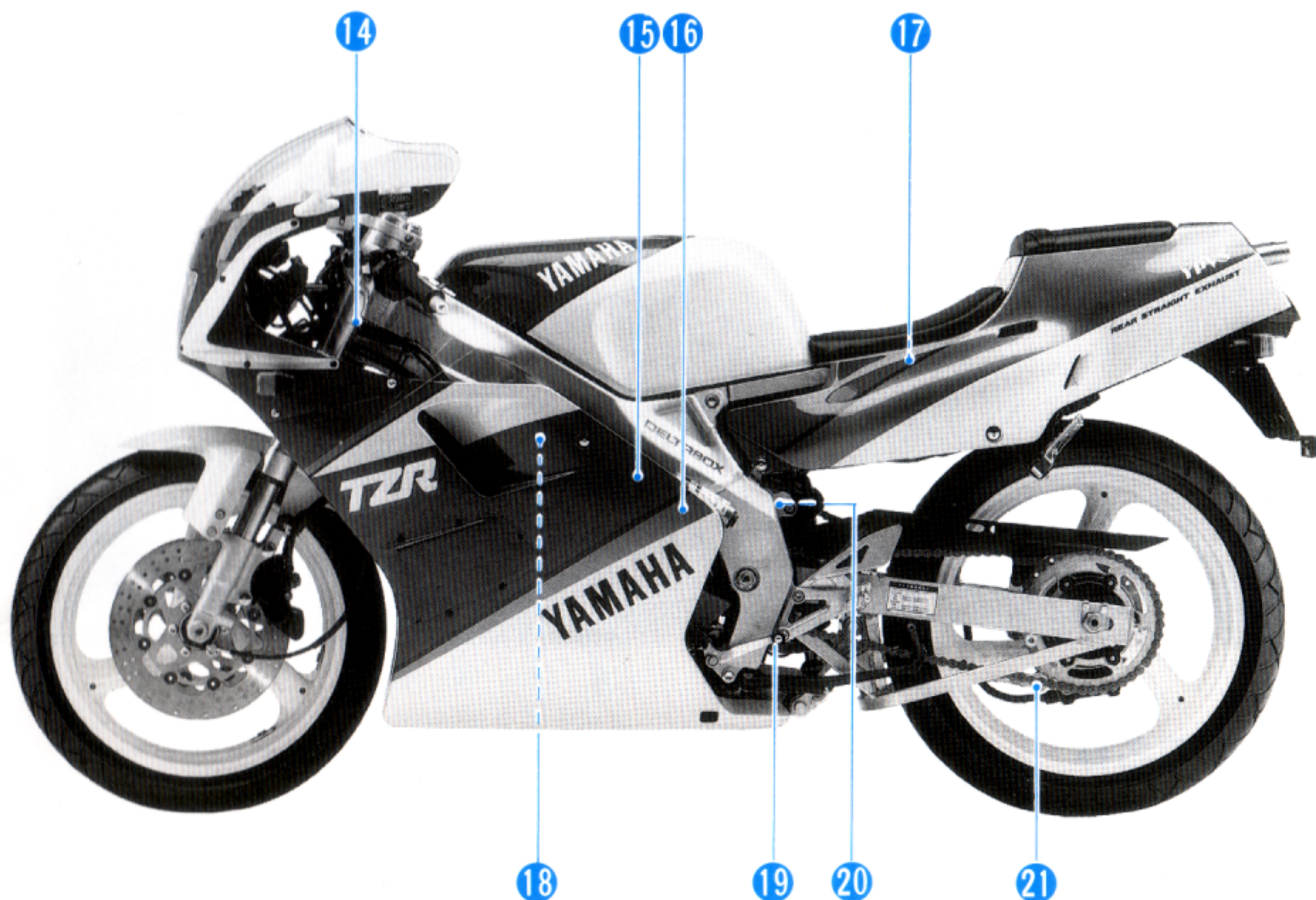
名称と操作



〔写真はTZR250〕

各部の名称

- | | |
|--------------------------------------|------------------------|
| ① 前輪ブレーキフルードリザーバタンク
(P24, 29, 35) | ⑦ オートルーフオイルタンク(P25) |
| ② ブレーキレバー(P23, 28, 35) | ⑧ サービスツール(P20) |
| ③ エアクリーナ(P31, 38) | ⑨ ヒューズ(P42) |
| ④ ミッションオイル注入口(P36) | ⑩ バッテリー(P43) |
| ⑤ フュエルタンクキャップ(P18) | ⑪ ミッションオイル点検窓(P36) |
| ⑥ 後輪ブレーキフルードリザーバタンク
(P24, 29, 35) | ⑫ ブレーキペダル(P23, 28, 35) |
| | ⑬ ヘルメットホルダ(P19) |

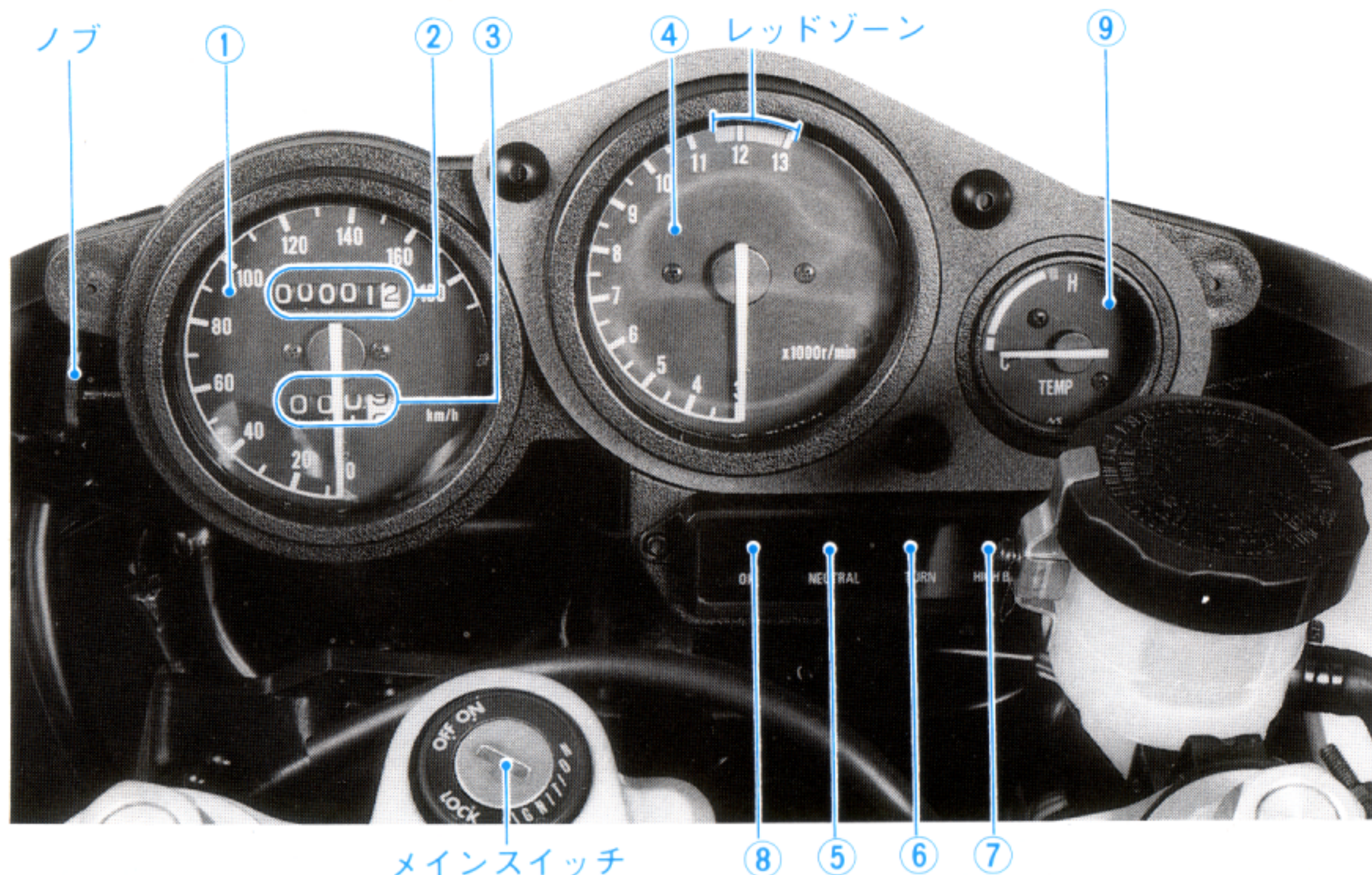


〈…部は外観から見えない部分です。〉

- ⑭ クラッチレバー (P30, 36)
- ⑮ チョークレバー (P21)
- ⑯ フュエルコック (P17)
- ⑰ 書類入れ (P19)

- ⑱ リカバリタンク (P24, 33, 38)
- ⑲ シフトペダル
- ⑳ リヤクッション (P40)
- ㉑ ドライブチェーン (P31, 42)

名称と操作



各部の名称

B00100

①スピードメータ

指針は車の走っているスピードを示します。

B00200

②オドメータ

走行した総距離をkmの単位で示します。白地に黒文字は100mの単位です。オイル交換や定期点検整備の目安となります。

B00300

③トリップメータ

ノブ(つまみ)をまわして数字を0に戻して出発すればあなたの目的の場所までの走行距離を知ることができます。

B00400

④タコメータ

毎分のエンジン回転数を示します。指針が赤色表示部(レッドゾーン)に入らないように運転してください。

T00300

注 意

- 慣らし運転後もエンジン回転数はレッドゾーンに指針が入らないよう注意し走行してください。
 - 空吹かしや1速、2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので注意してください。
- レッドゾーンとはエンジンの許容回転数オーバーを示したもので、レッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になりエンジン寿命に悪影響を与えます。

B00600

⑤ニュートラルランプ(緑) NEUTRAL

メインスイッチが**ON**の位置でチェンジがニュートラルのとき点灯します。

B00700

⑥フラッシュパイロットランプ(橙) TURN

フラッシュが作動している時に点滅します。

B00800

⑦ハイビームインジケータ(青) HIGH BEAM

ヘッドライトが点灯し照射角が上向き
のときに点灯します。

B00905

⑧オイル警告灯(赤)

オイルタンク(容量約1.4ℓ)内のオート
ループオイルの量が規定以下になると
オイル警告灯が点灯し補給時期を知
らせます。

T00402

注 意

- 警告灯の球切れ、回路の点検のため、チェンジがニュートラル時にオイル警告灯が点灯します。
- 万一走行中、オイル警告灯が点灯したら、早目にオイルを補給してください。
- オイル量が不足のまま運転するとエンジントラブルの原因となります。

B01000

⑨水温計 TEMP

エンジン冷却水の温度を表示します。
走行中の温度は目盛りの白色ゾーンの
範囲を示すのが正常です。

万一針が赤目盛りを示したら、エンジ
ンを止めてリカバリタンク内の水量を
点検してください。

T00500

要 点

長時間にわたるアイドリングにより、
水温計の針が赤目盛りを示す場合が
あります。このときは、走行してエ
ンジンを冷やすか、エンジンが冷え
るまでエンジンを止めてください。

B00503

速度警告灯(メーカーオプション)

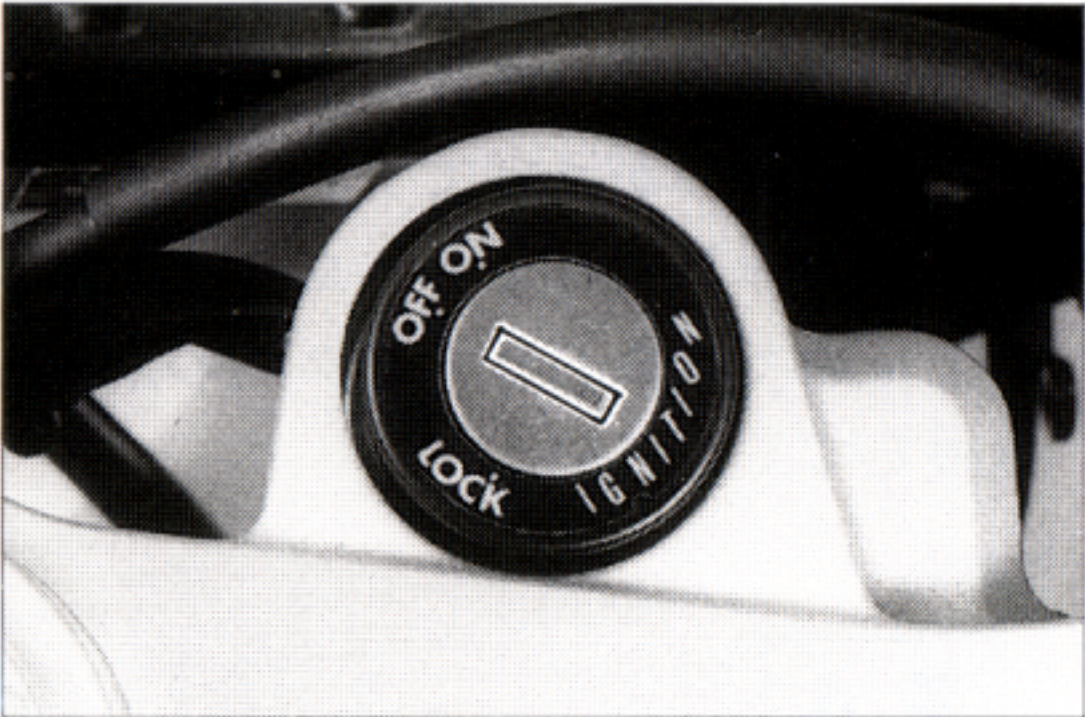
車の速度が80km/h以上になると点灯し
ます。

名称と操作

B01203

スイッチの操作

メインスイッチ



S00702

注意



車から離れるときは必ずハンドル
ロックをかけキーを抜いてお持ちく
ださい。

1		エンジン停止
		キーの抜き取り ができます。
2		エンジン始動
		キーの抜き取り はできません。
3		夜間駐車 ハンドルロック
		キーの抜き取り ができます。

B01306

ハンドルロック

駐車時の盗難予防のためにハンドルロックがあります。

1. ハンドルを左右のどちらかへいっぱいにきります。
2. **OFF** の位置でキーを一度押し込みます。
3. 手を放し、キーがもとに戻った状態で **LOCK** の位置までまわします。

S00800

要 点

ハンドルロックしにくい場合はハンドルを軽く左右に動かしてロックしてください。

4. キーを抜き取ります。

S00801

▲注意

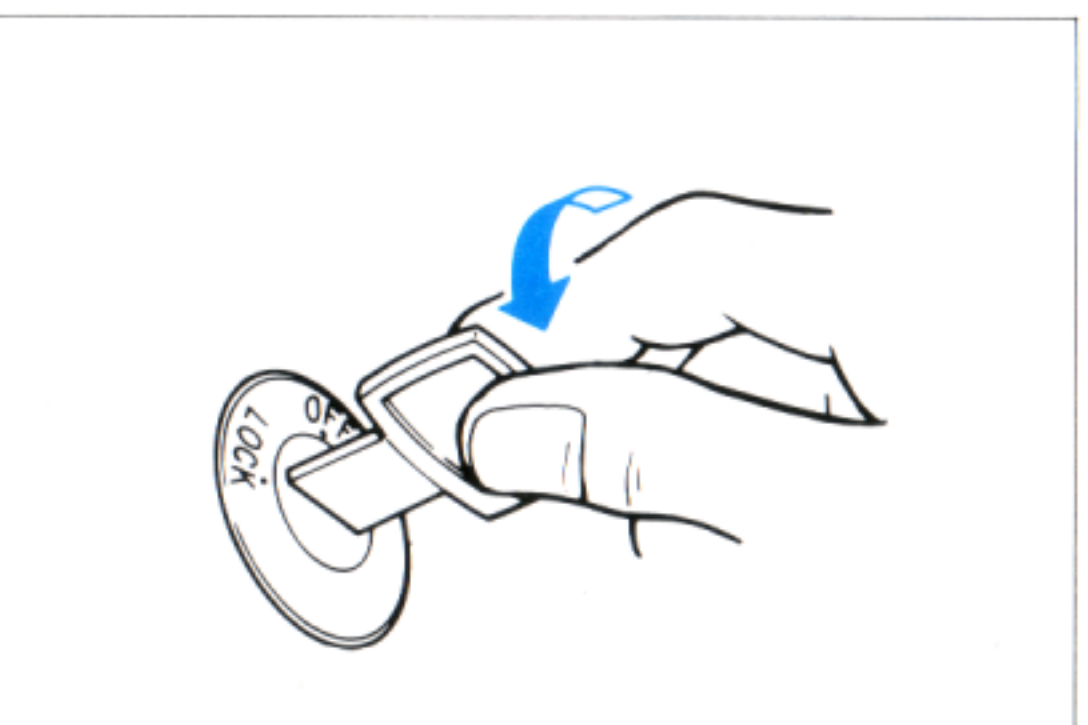
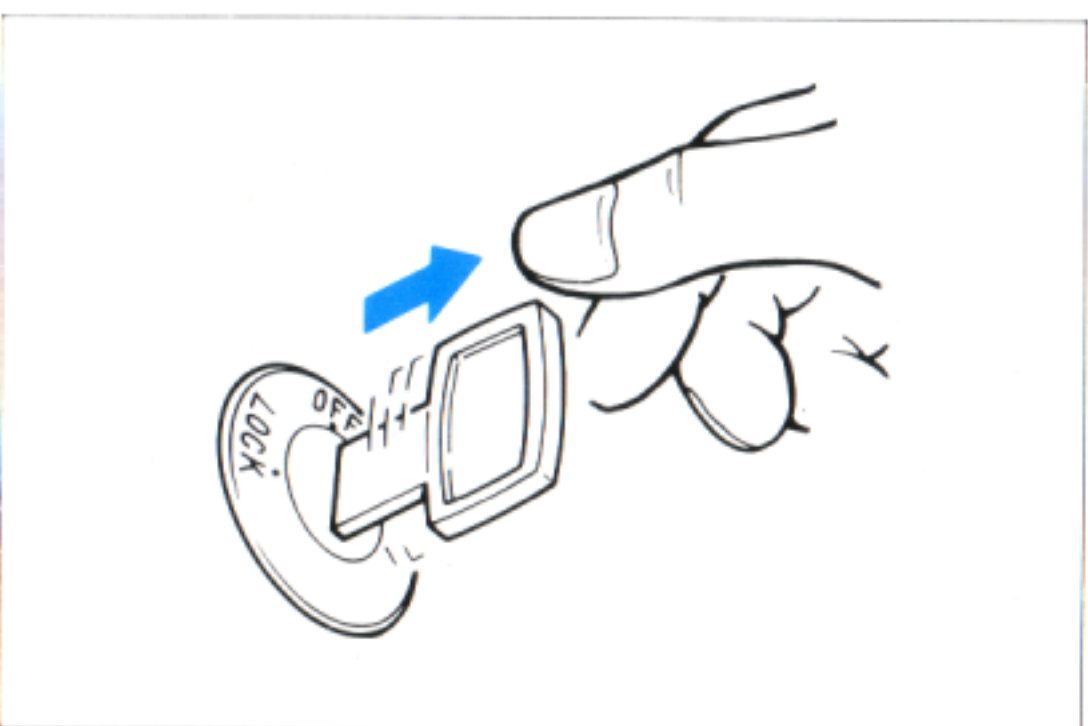
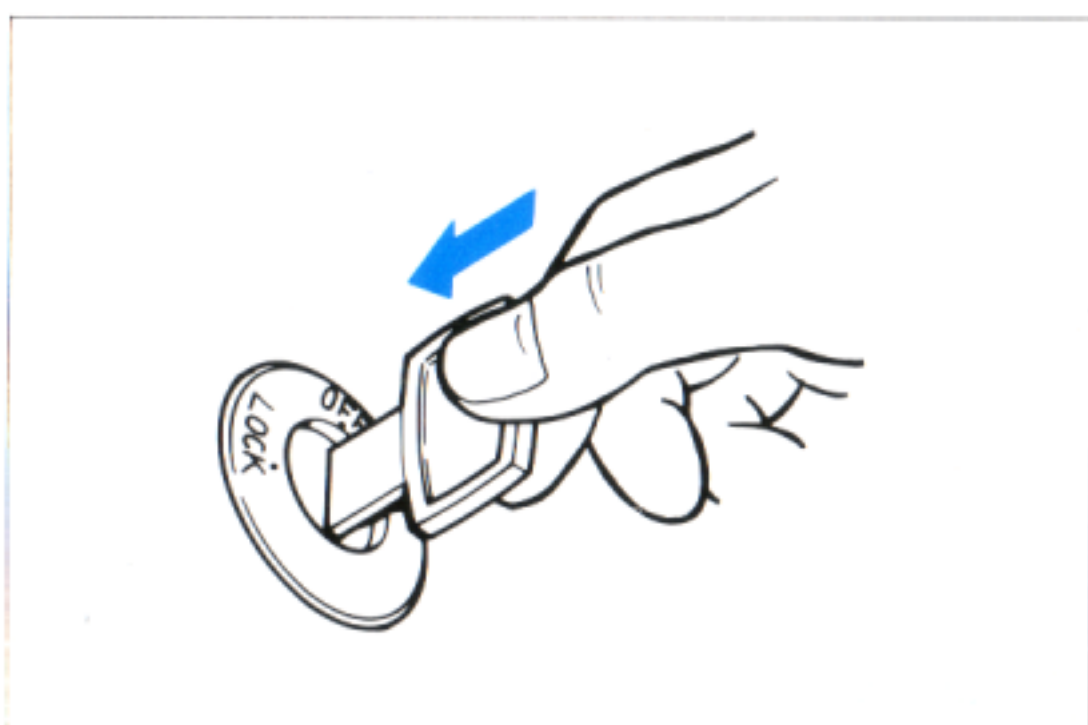


- 駐車等で車から離れるときは、盗難予防のためハンドルロックを必ずかけてください。
- サイドスタンドは車が止まってから出してください。
- マフラは熱くなります。人が触れない場所に止めてください。
- 交通のじゃまにならない平らな場所に駐車してください。また、砂利道、坂道での駐車は車が不安定となり危険です。

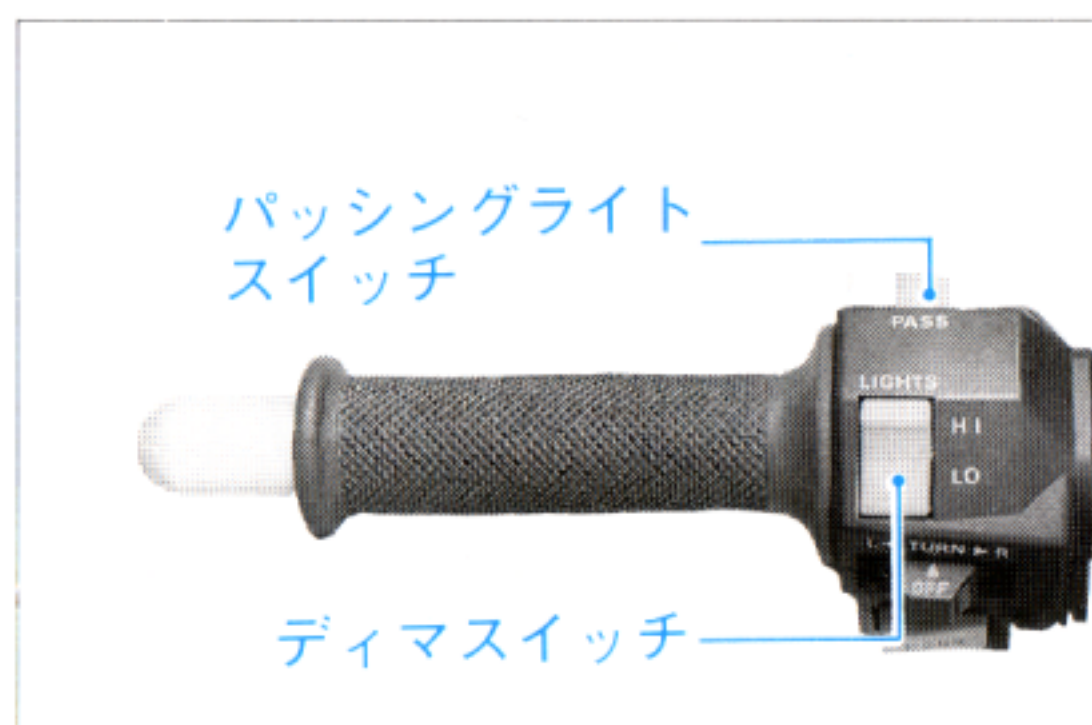
B01402

ハンドルロックの外し方

キーを入れ **LOCK** の位置からそのまま **OFF** または **ON** の位置までまわします。



名称と操作



B01500

パッシングライトスイッチ (PASS)

スイッチを押すとヘッドライトの上向きが点灯します。先行車を追い越すときなど他車に対して合図をするときに使用します。

S00900

要 点

ディマスイッチが **HI** の位置のときは使用できません。

B01600

ディマスイッチ (LIGHTS)

HI	ヘッドライト上向き
LO	ヘッドライト下向き

S01000

要 点



昼間点灯

- 昼間もヘッドライトの下向き点灯をしましょう。
- 先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き **LO** にして走行してください。



B01700

フラッシュスイッチ (TURN)

右左折するときや進路を変更する場合は、フラッシャで指示します。

曲がる側または進路を変える側にフラッシュスイッチを操作します。

フラッシュスイッチを押せばフラッシャは消灯します。

S01100

要 点

曲がり終わったら忘れずにスイッチを押してください。

B01800

ホーンスイッチ (HORN)

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

S01200

要 点

必要時以外は使用しないでください。



B01900

エンジンストップスイッチ (ENGINE STOP)

突発的な非常時にエンジンを直ちに停止させるために使用します。非常時のみ使用してください。通常は **RUN** の位置にしておきます。

S01300

注 意

- **OFF** の位置ではエンジンは始動できません。
- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを **OFF** にしてください。**ON** のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中にエンジンストップスイッチを **RUN** → **OFF** → **RUN** にするとエンジン回転が不円滑となり、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。



B02002

ライトスイッチ (LIGHTS)

ON	ヘッドライト、テールランプ、メータランプが点灯します。
OFF	消灯します。

S01400

要 点



ヘッドライトはエンジン始動後に点灯してください。

名称と操作

B02300

各部の操作

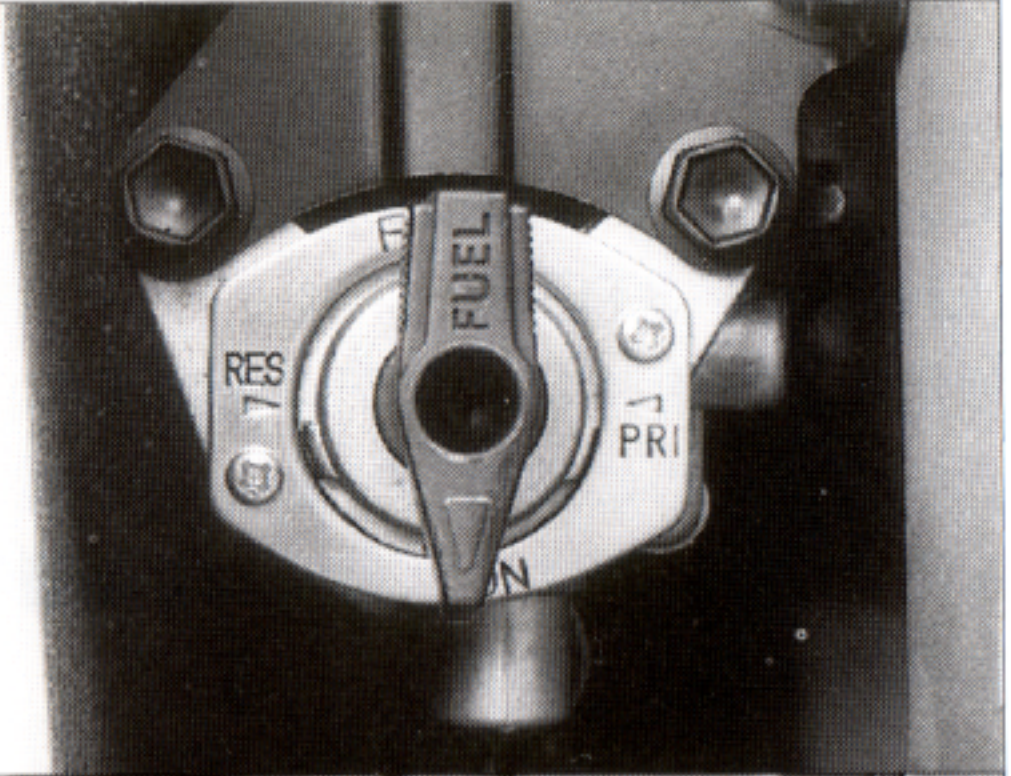
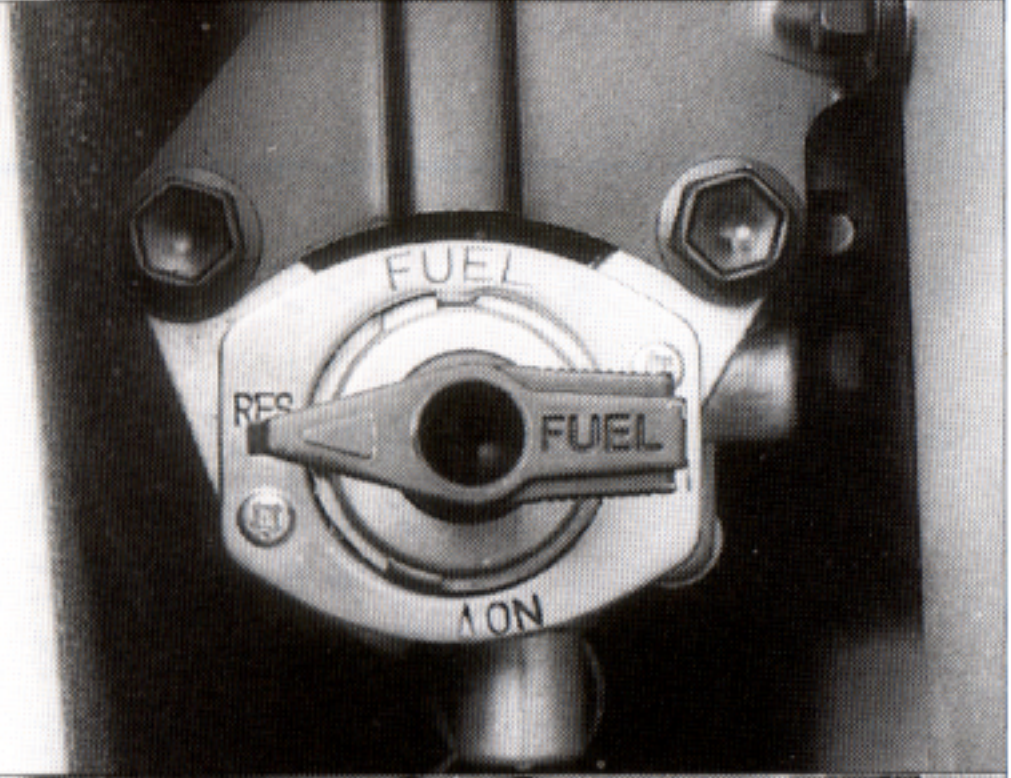
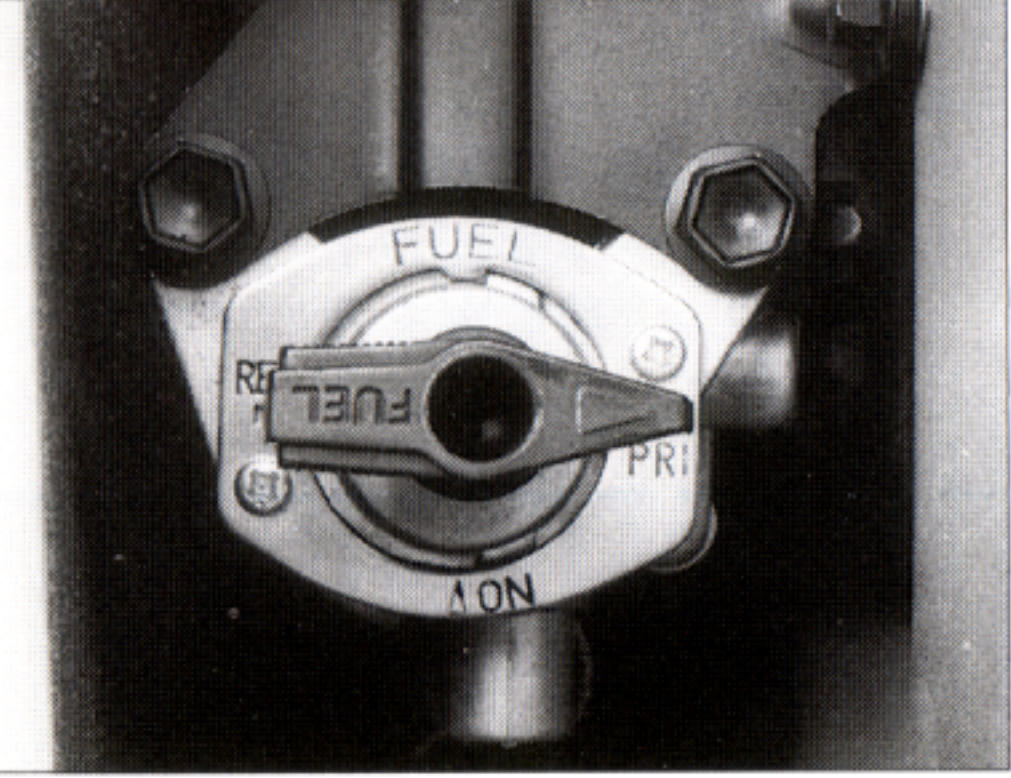
フュエルコック

この車のフュエルコックは自動コックを使用しています。**ON** および **RES** の位置ではエンジンが停止すると自動的にガソリンの流れが止まります。

S01600

要 点

ON で走行中ガソリンが無くなった場合、約1分間レバーを **PRI** の位置にしてから **RES** の位置にしてください。始動が容易になります。

ON	始動および走行時のレバーの位置です。	
RES	予備燃料(予備容量約3.0ℓ)の位置です。 ON で走行中ガソリンが無くなったらレバーを RES の位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。 給油を終えたらレバーを ON の位置に戻してください。	
PRI	RES の位置でガソリンが無くなったとき給油時に使用するレバーの位置です。給油する間だけ使用します。(給油後の始動が容易になります。) 給油を終えたらレバーを ON の位置に戻してください。	

B02400

ガソリンの給油

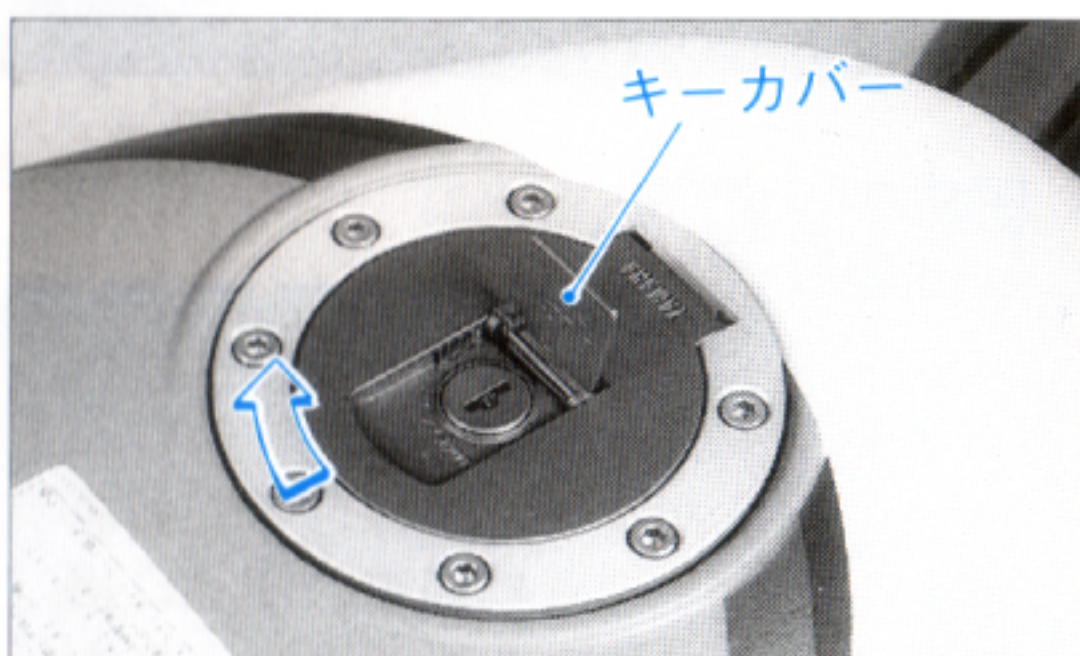
キーカバーを開け、メインスイッチキーでロックを外し、フュエルタンクキャップを開けて給油します。

ガソリンは注入口にあるフィラプレート下部以上入れないでください。

メインスイッチキーを抜き取ると、フュエルタンクキャップを閉めることができません。

タンク容量：約16ℓ（予備容量含）

使用燃料：無鉛ガソリン



U00400



- 給油は必ずエンジンを止めて火気を近づけないでください。
- ガソリンをフィラプレート下部以上入れると、走行中ガソリンが膨張しにじみ出ることもあり危険です。
- こぼれたガソリンは、布きれ等で完全にふき取ってください。

B02506

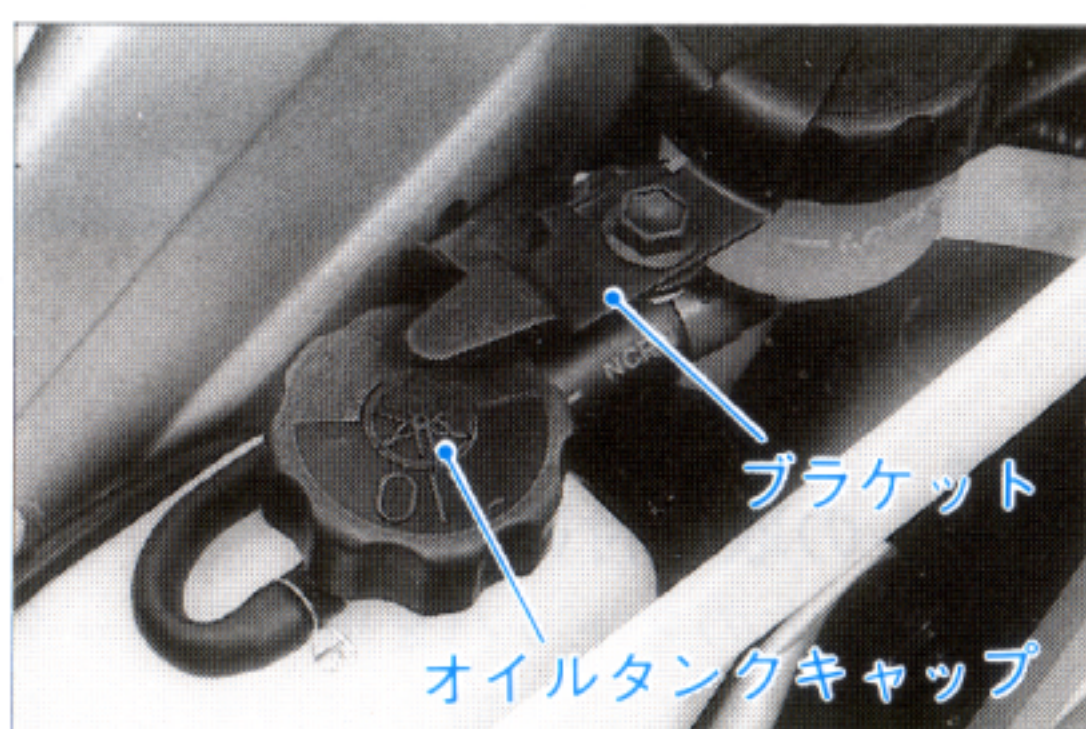
オートループオイルの補給

カウリング右側の内側にオイルタンクがあります。

ブラケット、オイルタンクキャップを外し、オイルを補給します。

オイルタンク容量：約1.4ℓ

使用オイル：オートループオイルスーパーR
：オートループスーパーオイル



T00700

注意

- 走行中オイル警告灯が点灯したら直ちにオイルを補給してください。
- オイルを切らしたまま走行しますとエンジンがこわれる原因になりますので必ずオイル点検をしてください。
- 他銘柄オイルとの混合はしないでください。
- オイル補給のときは必ずエンジンを止めて火気を近づけないでください。

名称と操作

B02607

シートの取り外し方

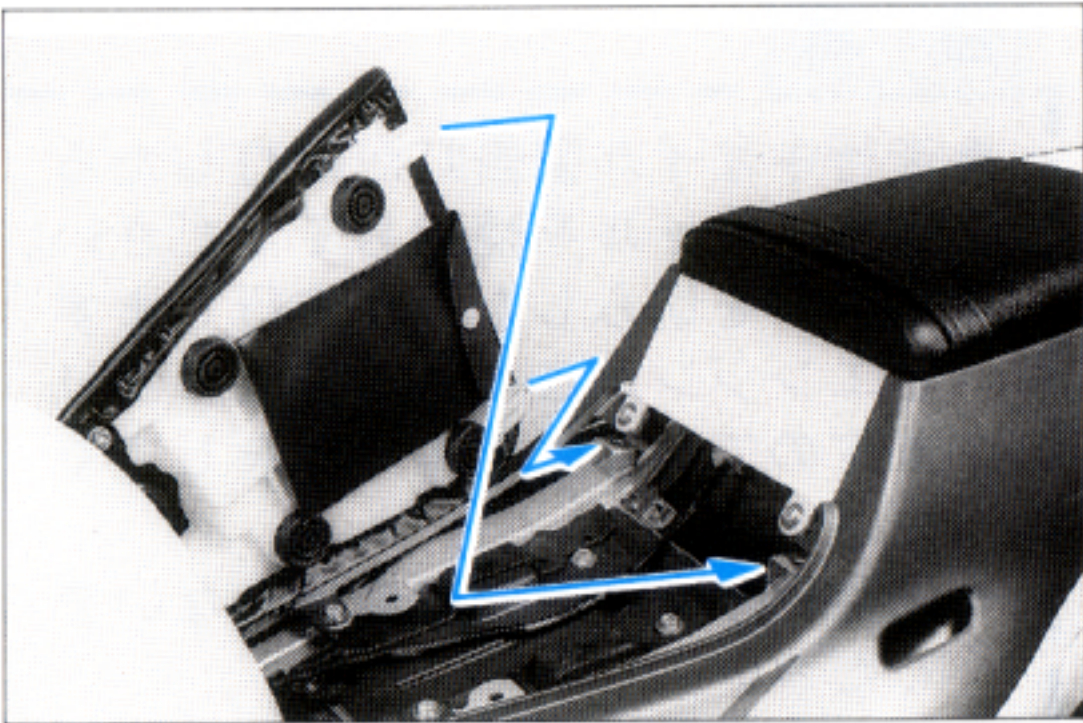
取り付けボルトを外し、シートを取り外します。



B02708

シートの取り付け方

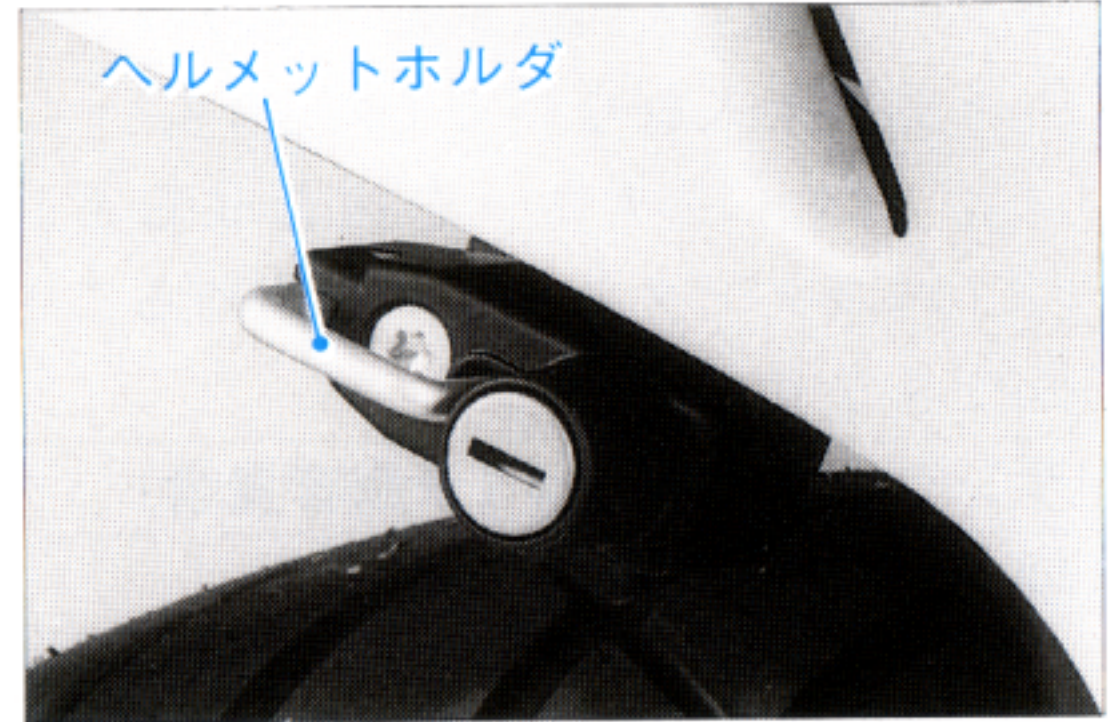
シート後方のストッパを車体のフックに確実に入れシート取り付けボルトを締め付けます。



B02802

ヘルメットホルダ

メインスイッチキーでロックを外し、ヘルメットのあごひもの金具の部分を掛けてロックします。（駐車時）



U00500

注意



ヘルメットをヘルメットホルダに付けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げおもわぬ事故のもとになったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

S02900

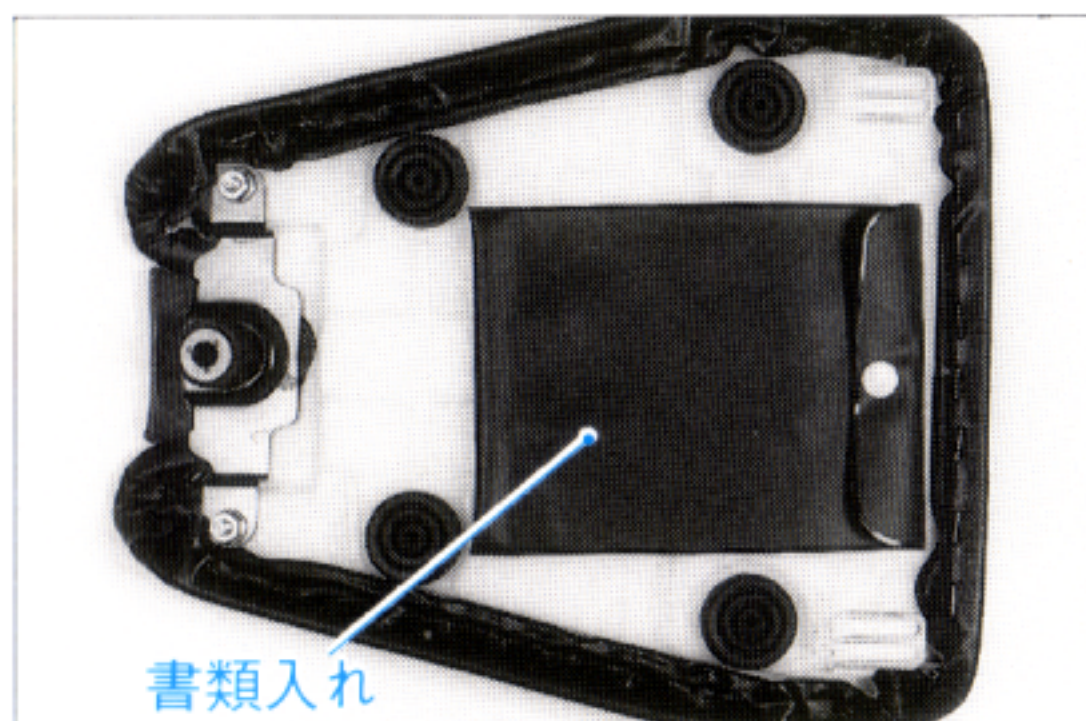
要点

ヘルメットホルダは、常にロックした状態にしておいてください。

B02907

書類入れ

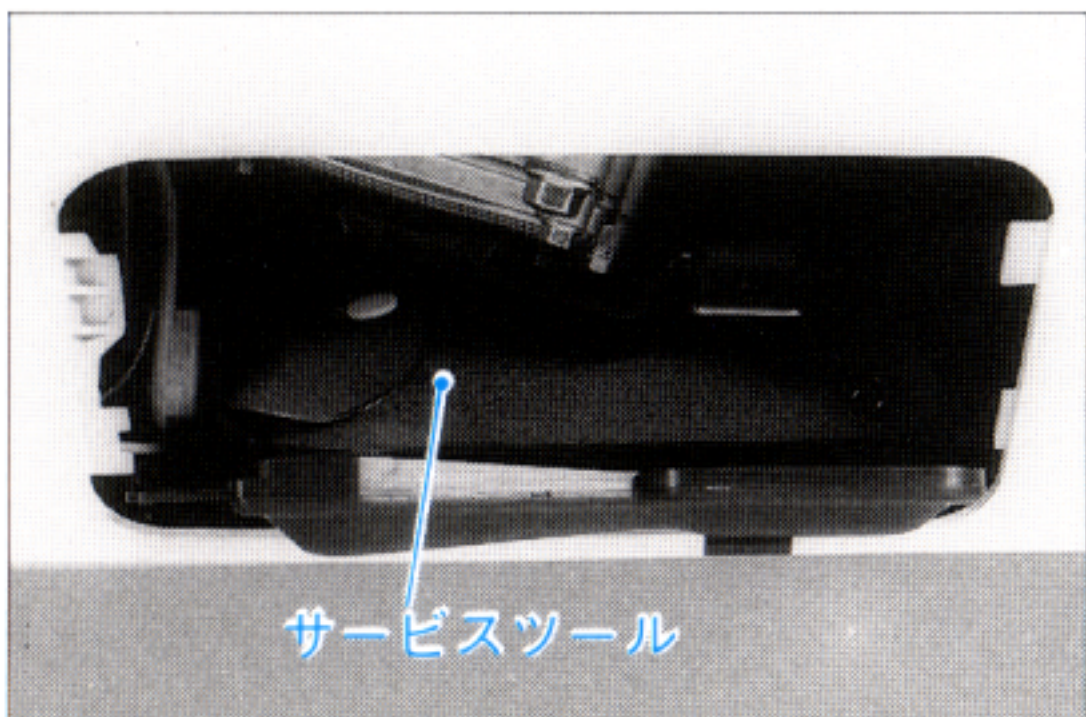
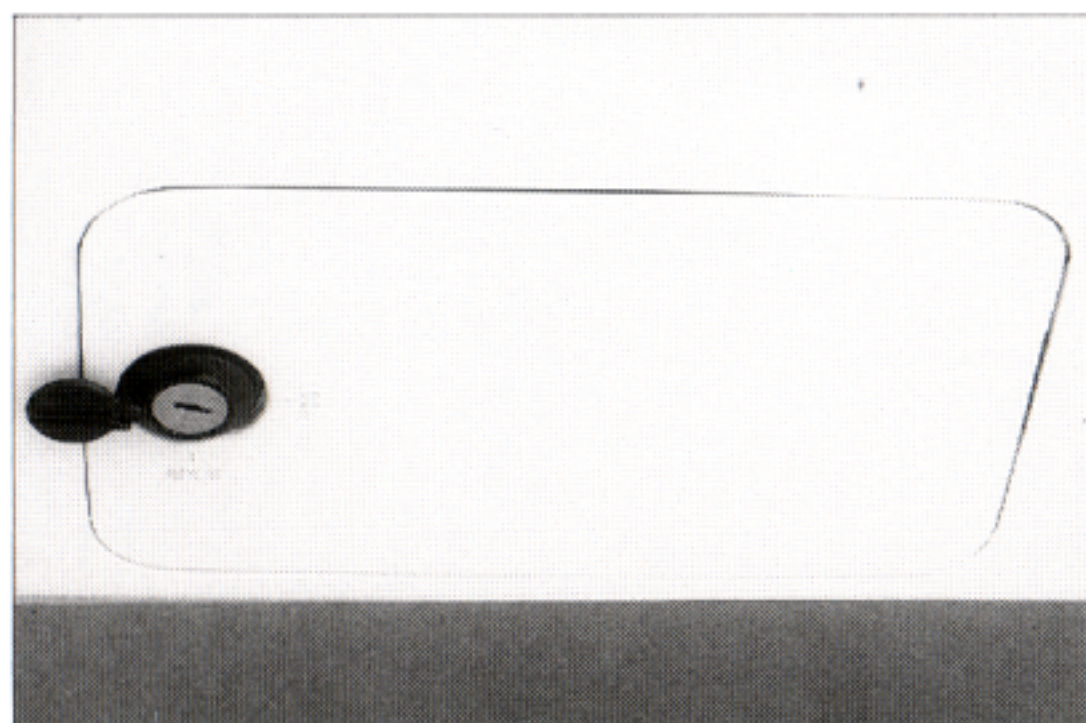
シートを取り外すとシート裏側に書類入れがあります。



B03110

サービスツール

ロアカウリングのカバーをメインスイッチキーでロックを外し開けると、ツールボックス内に格納してあります。



B03800

始動装置

始動時の飛び出しと、サイドスタンド格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。

サイドスタンド	チェンジ	始動	発進・走行
使用時	ニュートラル時	○	—
	ニュートラル以外	×	×
格納時	ニュートラル時	○	—
	ニュートラル以外	○	○

要 点

- サイドスタンド使用時、チェンジをニュートラルにしないとエンジンは始動しません。
- サイドスタンド格納時は、チェンジがニュートラル以外でもクラッチレバーを握ればエンジンは始動できます。
- サイドスタンド使用時は発進できません。

名称と操作

B03900

ブレーキレバー

各自の手の大きさに合せ、ブレーキレバーの握り幅を4段階に調整できます。アジャスタにて調整します。

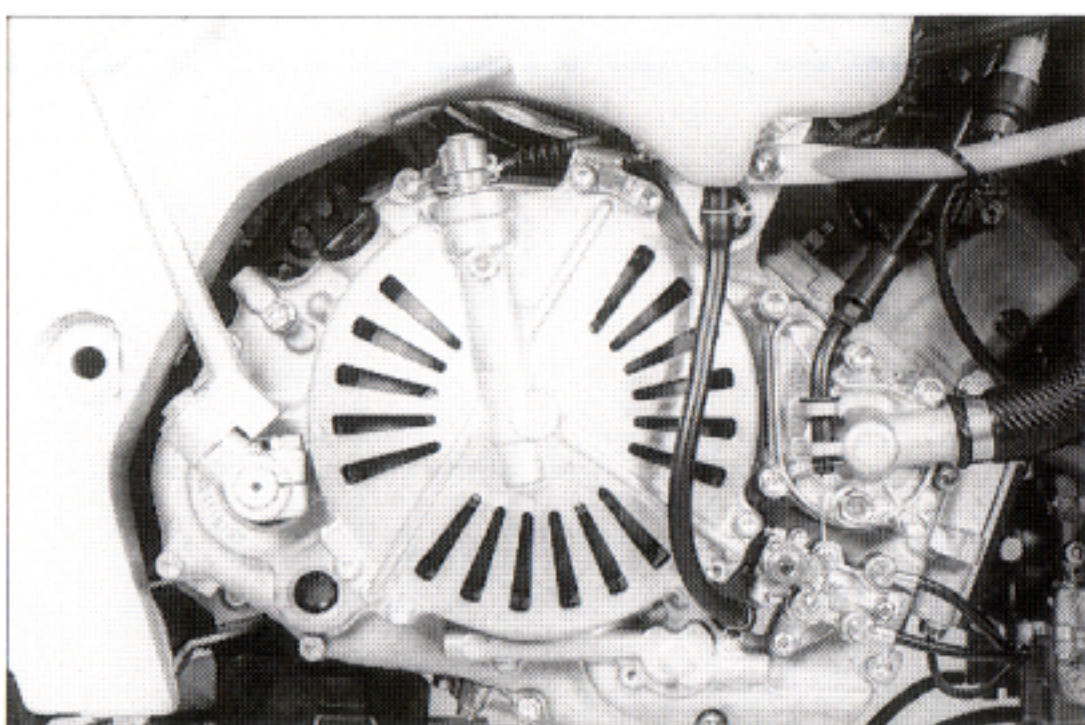


B03901

乾式クラッチ(SP仕様)

SP仕様車には、乾式クラッチを使用しています。

クラッチプレートおよびフリクションプレートの表面には絶対に油気を付着させないでください。



▲注意

クラッチにオイル等が付着するとクラッチが効かなくなる場合があります。クラッチの取り扱いには十分注意してください。

C00102

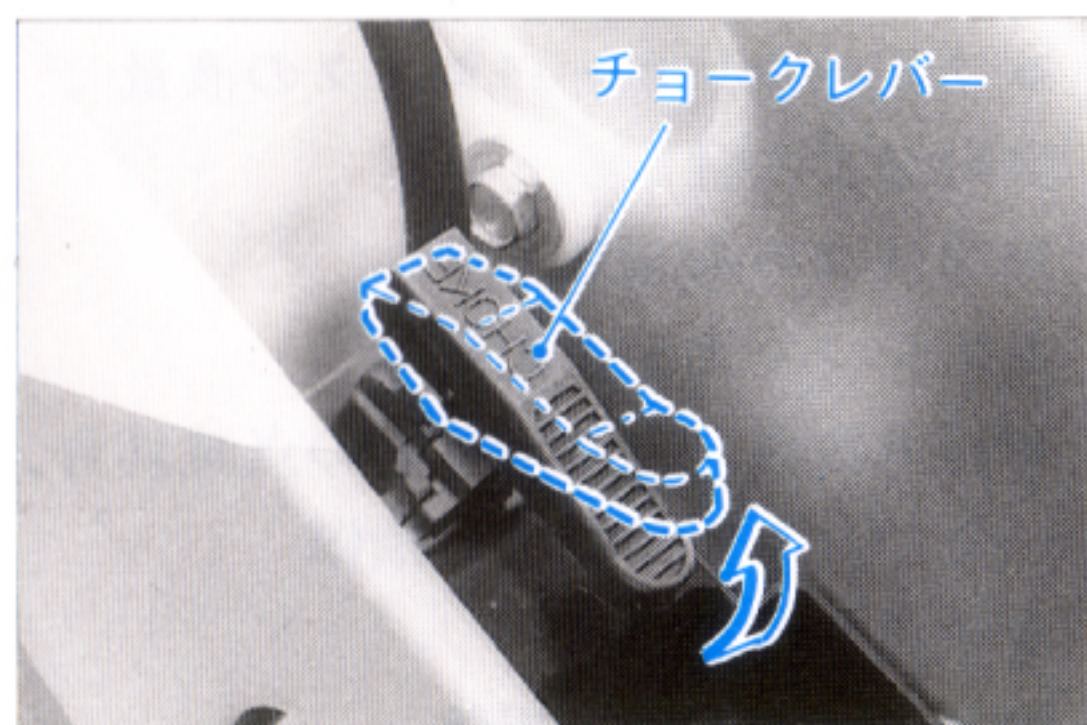
エンジンのかけ方

1. フュエルコックが **ON** (**RES**) の位置にあるか確認します。
2. メインスイッチを **ON** の位置にします。
3. エンジンストップスイッチが **RUN** の位置か確認します。
4. チェンジをニュートラルの位置にします。(ニュートラルランプで確認)

C00203

エンジンが冷えているとき

1. チョークレバーをいっぱいに引き上げます。



2. スロットルグリップを戻します。
3. 力強くキックします。
4. エンジンがかかったら20～30秒後にチョークレバーを半分ぐらい戻して暖機運転を行ないます。
5. エンジンが十分暖まりエンジンの回転が安定したらチョークレバーを完全に戻します。

S02100

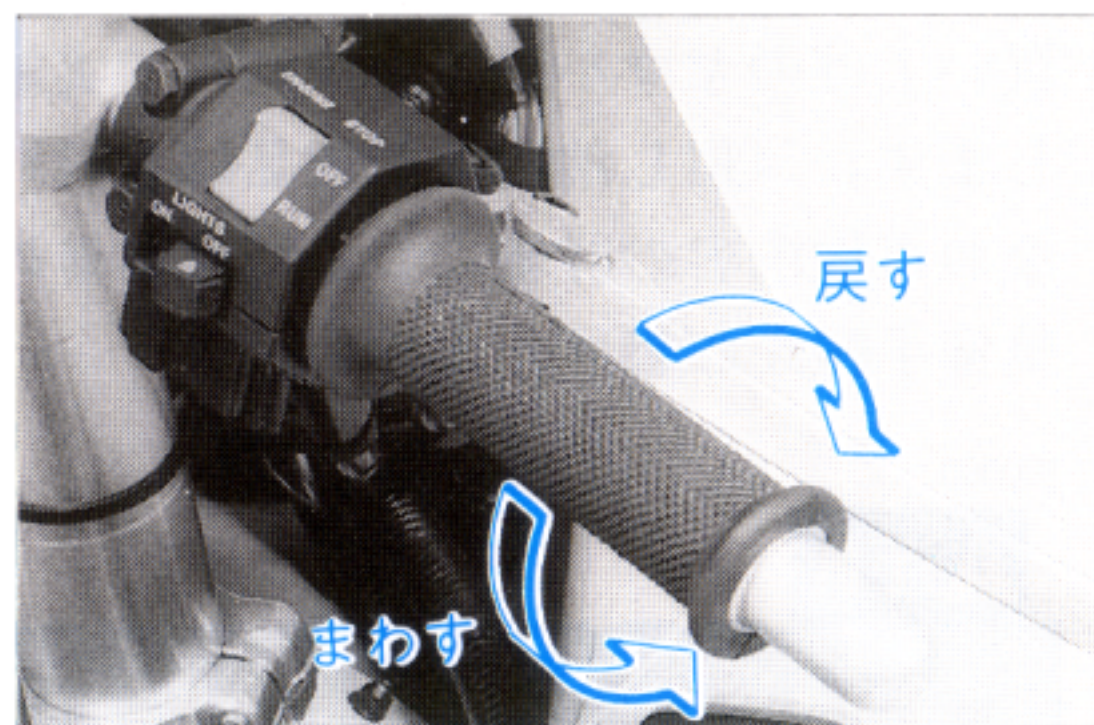
要 点

4～5回キックしてもかからない場合は、エンジンが暖まっているときの始動方法で行なってください。

C00302

エンジンが暖まっているとき

1. スロットルグリップを手前に少しまわし力強くキックします。



2. エンジンがかかったらスロットルグリップを戻します。

C00402

4～5回キックしても始動しない場合

チョークレバーを戻しスロットルグリップをいっぱいに開けて始動するとかかりやすくなります。

要 点

エンジンがかかったらスロットルグリップをすばやく戻してください。

C00500

エンジンのとめ方

メインスイッチキーを **OFF** にするとエンジンが止まります。

運行前点検

D00101

運行前点検、定期点検の実施

点検は、お車をいつまでも安全、快適にご使用いただくため使用する人が定期的に行なう点検で、法令で義務づけられています。二輪車には、運行前点検と、6 か月点検、12 か月点検があります。

またお使い始めてから 1 か月目または 1,000km 走行時の初回点検があり、お買い上げのヤマハ販売店が無料で実施します。（但し油脂類消耗品は有料）なお点検内容の詳細については別冊の整備手帳をご参照ください。

T00900

⚠ 注意

- 定期点検を怠ると重大な事故、トラブルの原因となります。また保証を受けられない場合がありますからご注意ください。
- 車を長期間放置してお乗りにならないときでも定期点検はお受けください。

D00204

運行前点検（高速走行前点検）

運行前点検は、車を使用する人が 1 日 1 回運転する前に実施する点検です。

※印の点検項目は、高速道路を走行する予定がない場合は行なわなくてもよいものです。

- ブレーキペダルの踏みしろきき具合
- ※ 燃料の量
- バックミラーの写影の状態
- ブレーキリザーバタンクの液量
- ※ 冷却水の量
- ※ 冷却水の水漏れ
- ※ エンジンオイルの量
- 灯火装置、方向指示器の点滅具合、及びレンズの汚れ、損傷
- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂、損傷
- タイヤの異常摩耗
- タイヤの金属片、石、その他の異物
- ※ タイヤの溝の深さ
- 反射器の汚れ、損傷
- ナンバープレートの汚れ、損傷
- 前日の異状箇所の点検

D00400

ディスクブレーキのエア混入

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合によりエアが混入していないかを点検します。

(ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。)

ヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

D00500

ブレーキのきき具合の点検

乾燥した路面を走行して、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させ、きき具合が十分であることを点検します。ブレーキのきき具合が不十分であるときはヤマハ販売店で点検・整備をお受けください。

D00600

※ガソリン量の点検

フュエルタンクにガソリン量が十分であるか、フュエルタンクキャップを開けて点検します。

ガソリンが無い場合はガソリンを給油してください。

D00700

●バックミラーの写影の点検

シートにすわってみて、後方や側方の状況が十分に確認できる位置にバックミラーが調整されているかを点検します。

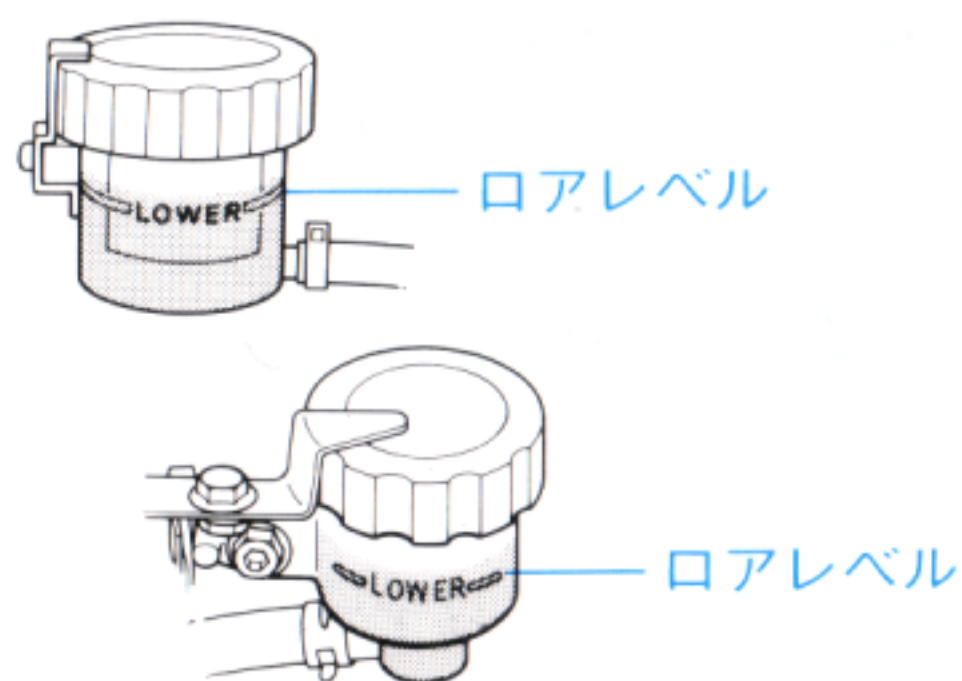
調整されていない場合はミラーを動かして調整します。

D00800

●ブレーキリザーバタンク液量の点検

ブレーキリザーバタンク内の液量がロアレベル以上の範囲にあるかを点検します。

(ブレーキ液の補給は35ページ参照)

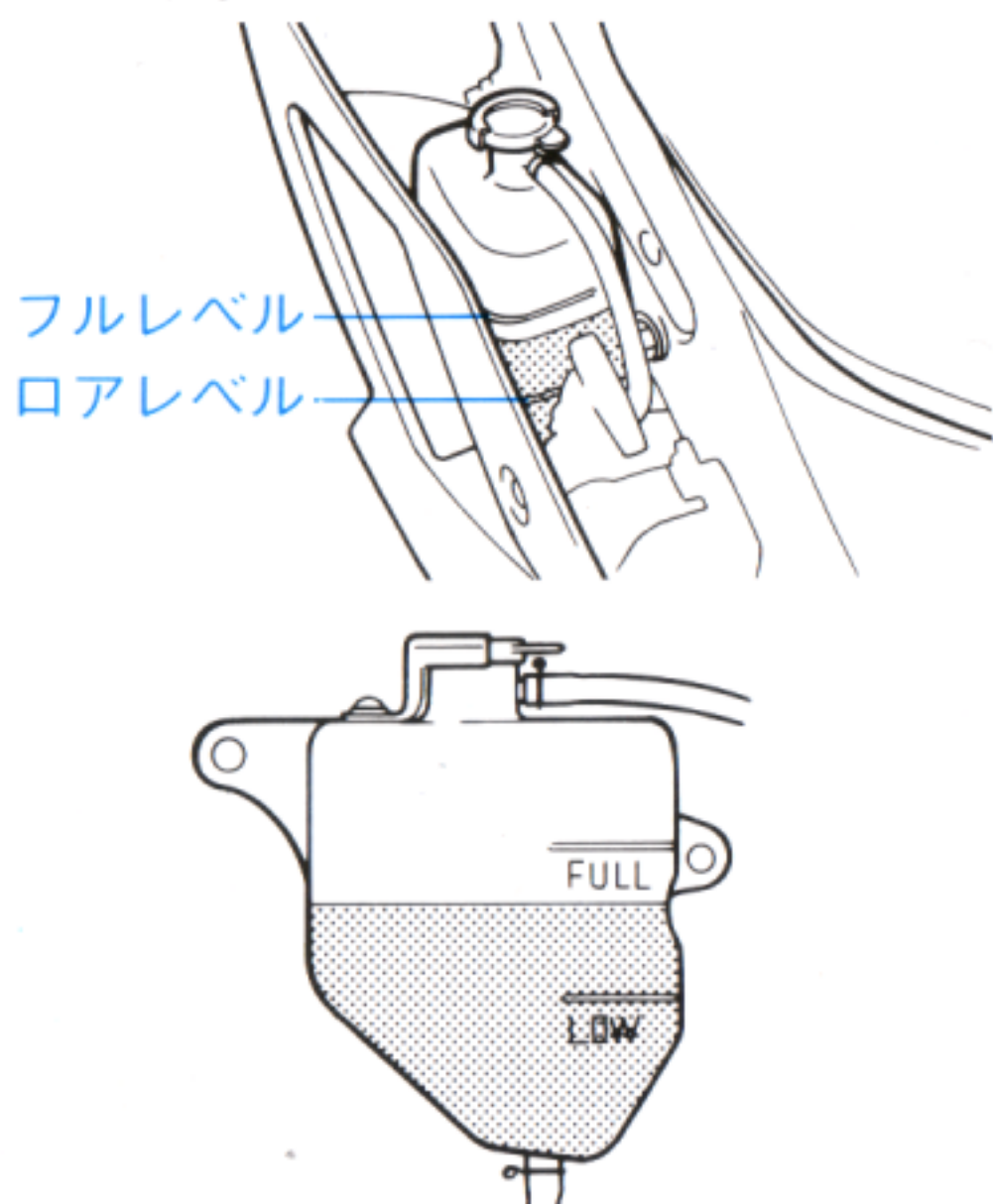


運行前点検

D00901

※冷却水量の点検

リカバリタンク内の冷却水がフルレベルとロアレベル間の範囲にあるか点検します。



冷却水が不足している場合は38ページを参照して補充してください。

D01001

※冷却水漏れの点検

ラジエタ、ラジエタホースなどから水漏れがないかを点検します。

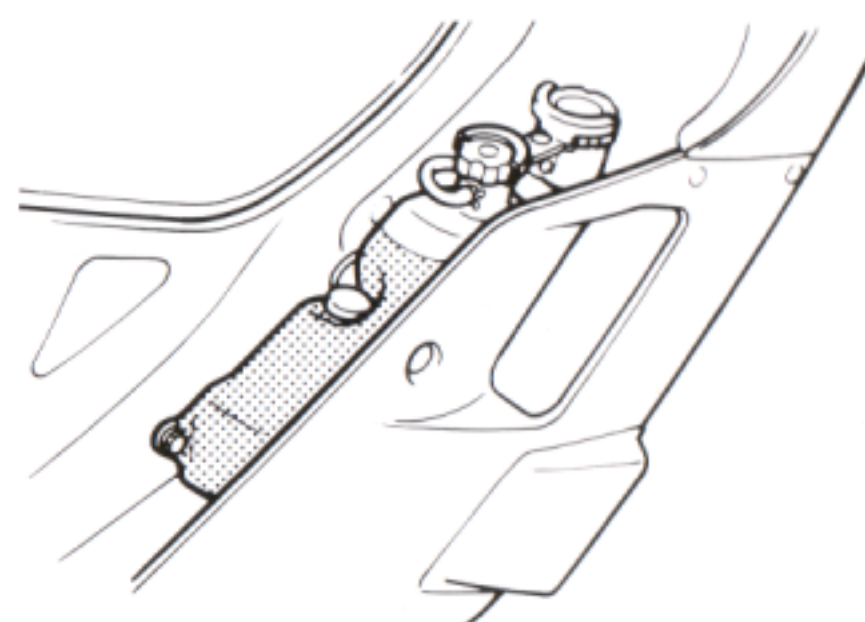
水漏れがある場合はヤマハ販売店にて点検、整備をお受けください。

D01107

※オートループオイルの量

オイルタンク内にオイル量が十分に入っているかを点検します。

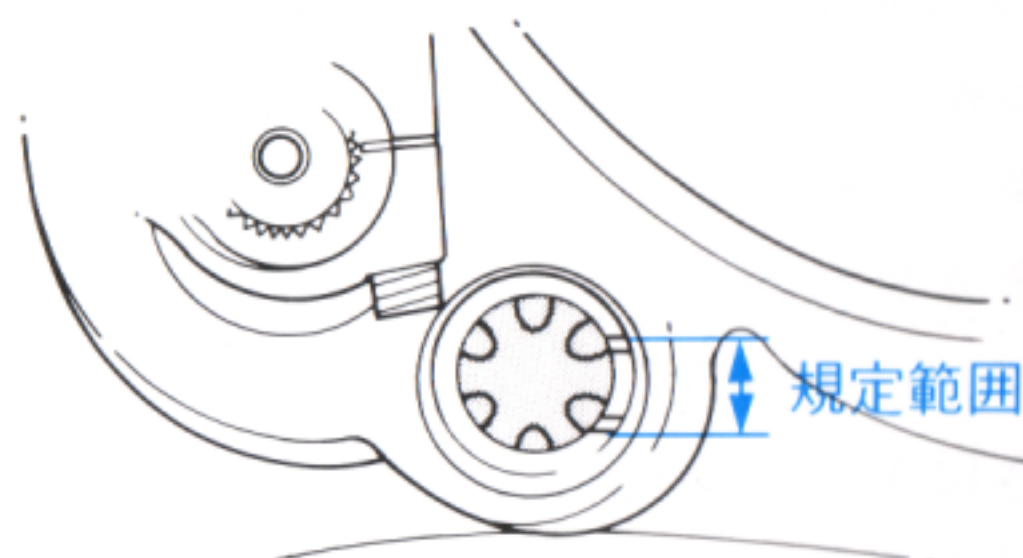
オートループオイルが不足している場合は*ページを参照して補給してください。



○ミッションオイルの量の点検

オイル量が点検窓の規定範囲内にあるかを点検します。

オイルが不足している場合は36ページを参照して補給してください。



D01200

●灯火装置、方向指示器の点滅具合、汚れ、損傷の点検

メインスイッチを入れ、ヘッドライト、テールランプ、ストップランプなどの灯火装置やフラッシュランプの点滅具合が不良でないかを点検します。またレンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しない場合は42ページを参照してヒューズを点検し、異状のない場合は45ページを参照して電球を交換してください。

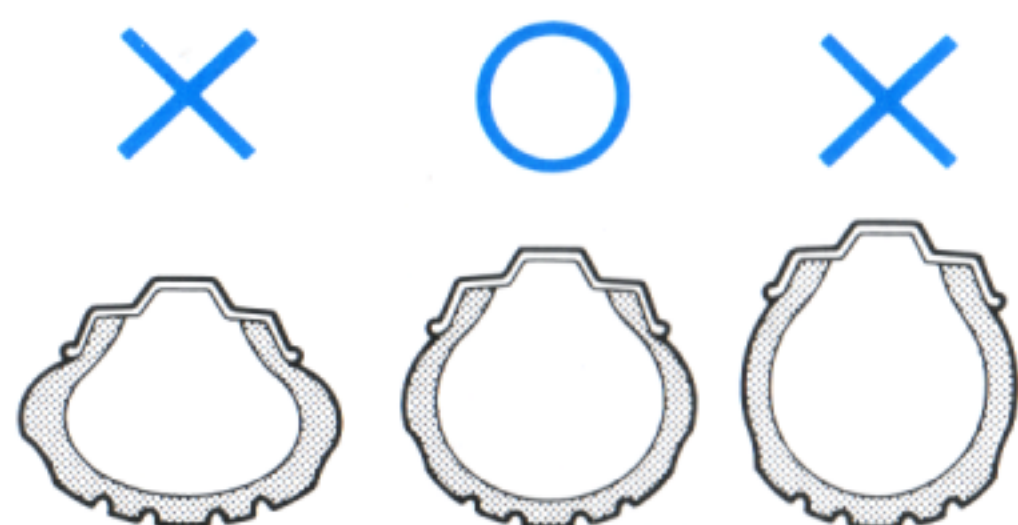
D01300

●タイヤの空気圧

タイヤの接地部のたわみの状態により空気圧が不足していないかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異常な場合は、エアゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

(タイヤ空気圧は、43ページ参照)



D01400

●タイヤの亀裂、損傷

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

D01500

●タイヤの異状な摩耗

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

D01600

●タイヤの金属片、石などの異物

タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

D01700

※タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さに不足がないかをウェアインジケータなどにより点検します。



タイヤに異状がある場合はヤマハ販売店にて検査・整備をお受けください。

D01800

●反射器の点検

反射器に汚れや損傷がないかを点検します。

D01900

●ナンバープレートの汚れ、損傷の点検

ナンバープレートに汚れや損傷がないか、確実に取り付けられているか、また番号などが明りょうに表示されているかを点検します。

D02000

●前日の異状箇所の点検

前日の運行中に異状を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

6か月定期点検

E00100

6か月定期点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行なう点検で、法令によって定められています。

自家用2輪自動車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

- ・6か月点検項目には、①と②の項目があります。別冊「整備手帳」の点検整備方式の一覧表を参照してください。ここでは①の項目とメーカー推奨項目の一部を選んで点検要領を説明してあります。

①……点検を行なうに当たって、車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば自らでも実施可能なもの。

②……点検を行なうに当たって、専門的な知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取り外しを伴うもの。

- ・点検結果は、別冊整備手帳の定期点検整備記録に点検整備の結果を記入する必要があります。ご自身でできない項目については、販売店で点検を受け記録してください。
- ・点検、記録は1か年保存してください。
- ・メーカー推奨項目の点検結果は、点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

U00700

⚠注意

点検するときは安全に十分注意してください。

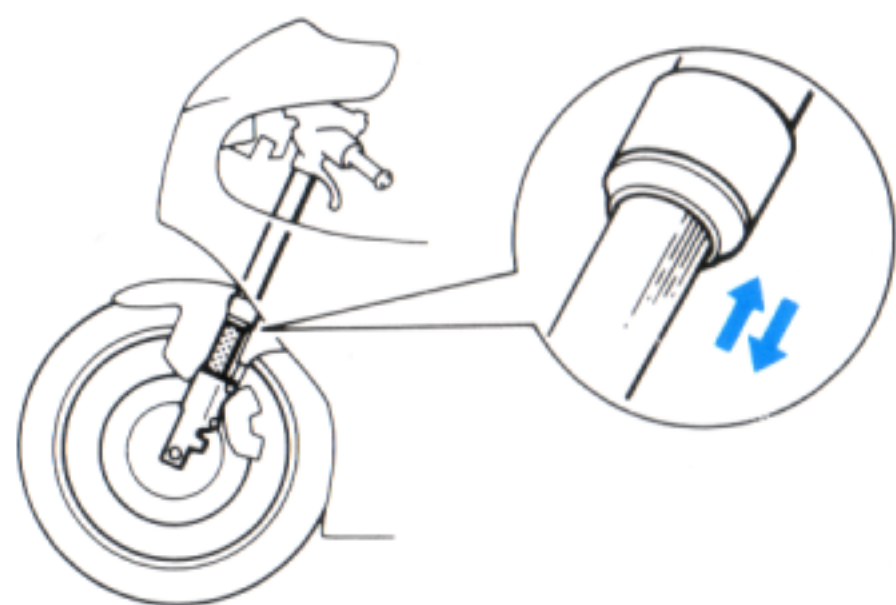
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行なってください。
エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にはご注意ください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- 走行して点検する必要があるときは、周囲の交通事情に十分注意してください。

E00200

フロントフォークの損傷の点検

フロントフォークに損傷がないかを点検します。

また、ハンドルを上下に動かし、フロントフォークの曲がりによる異音がないかを点検します。

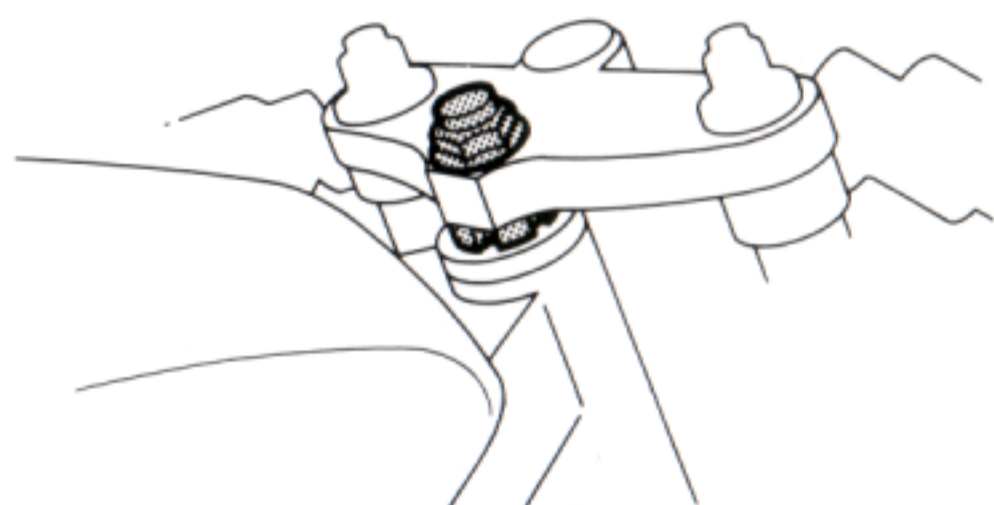


フロントフォークに異状がある場合はヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

E00300

アンダブラケットの取り付け状態の点検(ステアリングシステム)

アンダブラケットの締め付けボルト又は締め付けナットに緩みがないかを工具により点検します。



締め付けボルトに緩みがある場合はヤマハ販売店にて規定のトルクで締め付けを行なってください。

E00500

ディスクブレーキのエア混入

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合によりエアが混入していないかを点検します。

(ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。)

ヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

E00600

ブレーキのきき具合の点検

乾燥した路面を走行して、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させ、きき具合が十分であることを点検します。

ブレーキのきき具合に異状があるときは35ページのディスクパッドの摩耗を点検してください。

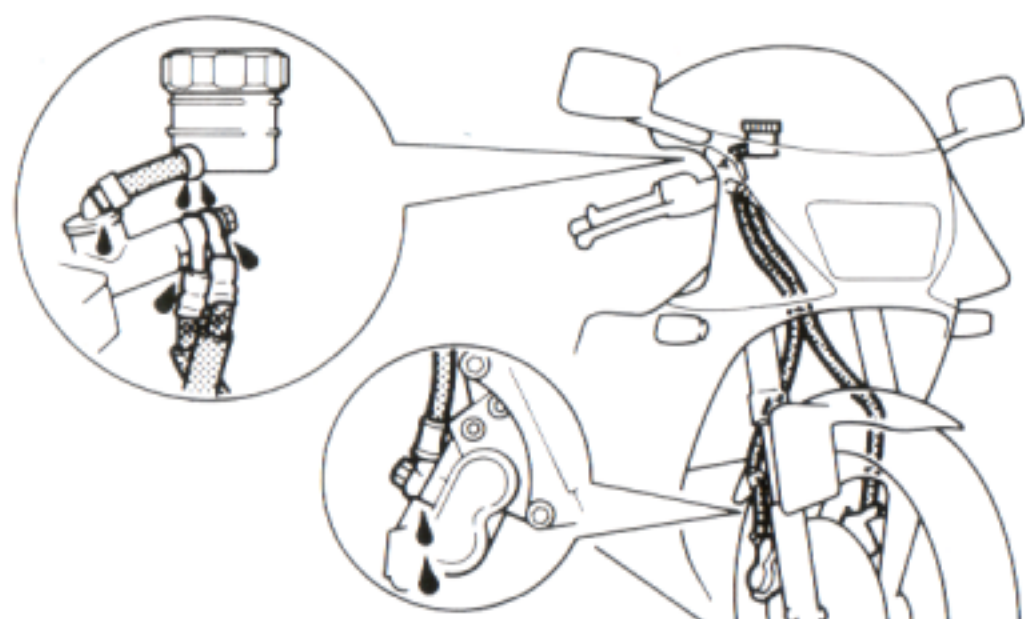
6か月定期点検

E00700

ブレーキホースの漏れ、損傷、取り付け状態の点検

ブレーキを作動させ、ホース、パイプ、接続部に液漏れ、損傷がないか点検し、接続部、クランプに緩みなどがいないかを工具により点検します。

また、ハンドルを左右に切ったときや走行中の振動でホース、パイプが他の部分と接触するおそれがないかを点検します。さらに、ホースが劣化していないかを点検します。



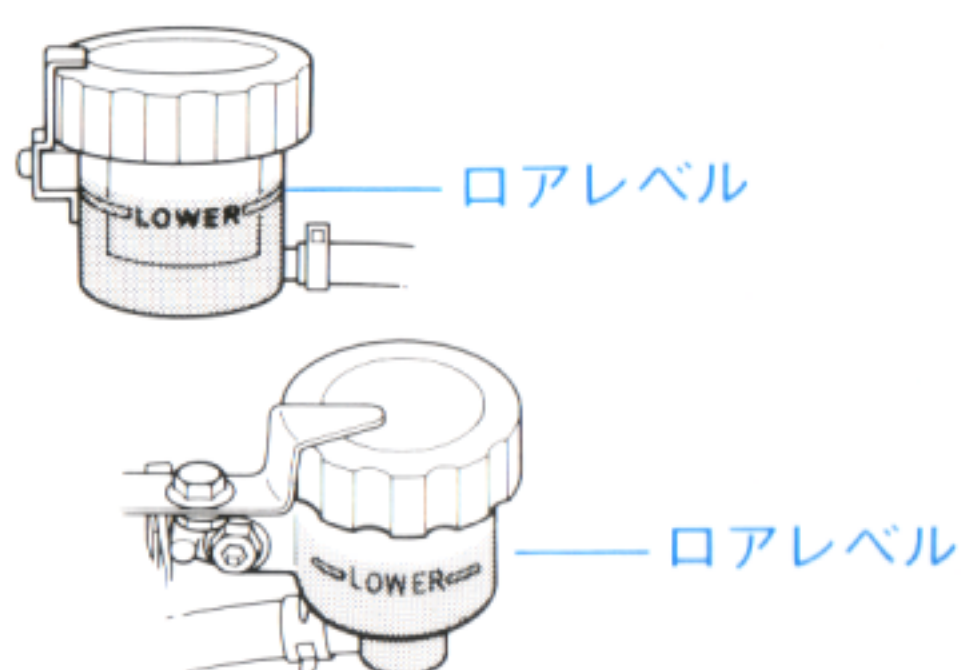
液漏れ、損傷等がある場合はヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

E00800

ブレーキリザーバタンクの液量の点検

マスタシリンダキャップ上面が地面と平行な状態にしてブレーキリザーバタンクの液量が規定のロアレベル以上の範囲にあるか点検します。また、タンク周辺から液漏れがないかを点検します。

(ブレーキ液の補給、35ページ参照)



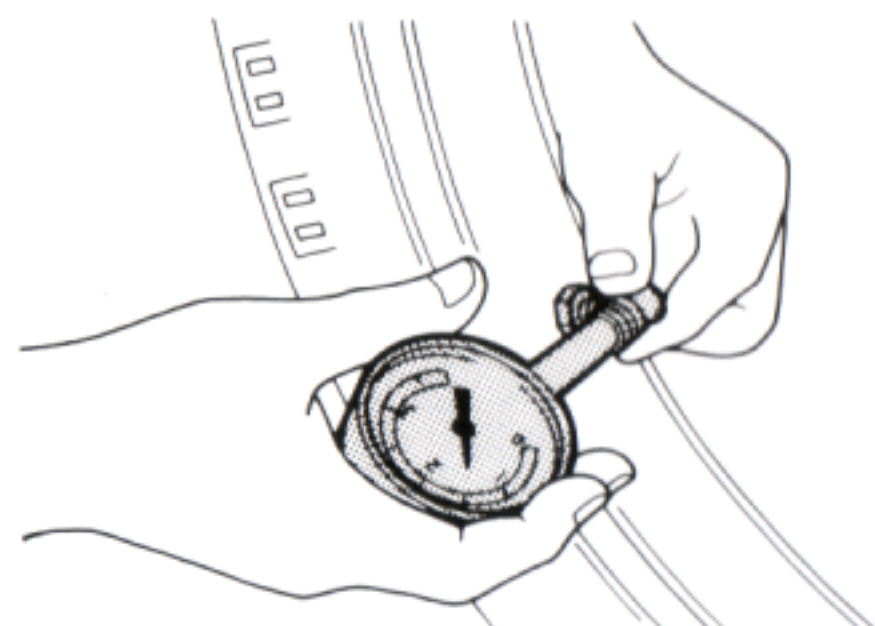
E00900

タイヤの点検

○タイヤの空気圧

タイヤゲージを用いて、空気圧が規定値にあるかを点検します。

空気圧はタイヤが冷えているときに点検してください。



(タイヤの空気圧は、43ページ参照)

○タイヤの亀裂と損傷

タイヤの接地面の全周と両側面に著しい亀裂、損傷がないか点検します。

○タイヤの溝の深さと異状な摩耗

タイヤの接地面に設けられているウェアインジケータの表示により点検します。

また、タイヤの接地面の全周にわたり、溝の深さが0.8mm以上あるかをディプスゲージなどにより点検します。

タイヤに偏摩耗などの異状がないか点検します。

○タイヤの金属片、石その他の異物

タイヤの接地面の全周と両側面に釘、石その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないか点検します。

ウェアインジケータ

(摩耗限度表示)



タイヤに異状がある場合はヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

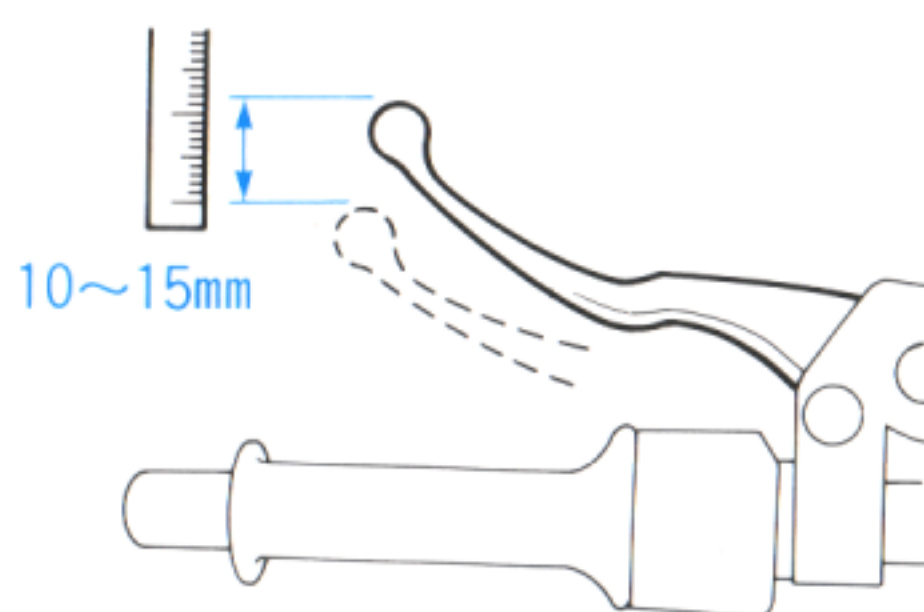
E01000

クラッチレバーの遊びの点検

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検します。

遊びは10～15mm

(クラッチレバーの遊びの調整は、36ページ参照)



E01100

クラッチの作用

エンジンを始動し、アイドリング状態で、クラッチレバーをいっぱいに引いたとき異音がしないか、異常に重くないかを点検します。

また、変速操作が容易にできるかを点検します。

クラッチレバーを徐々に離して発進したとき、滑りがなく接続が滑らかで、エンストなどしないかを点検します。

クラッチに異状がある場合はヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

S02400

注意

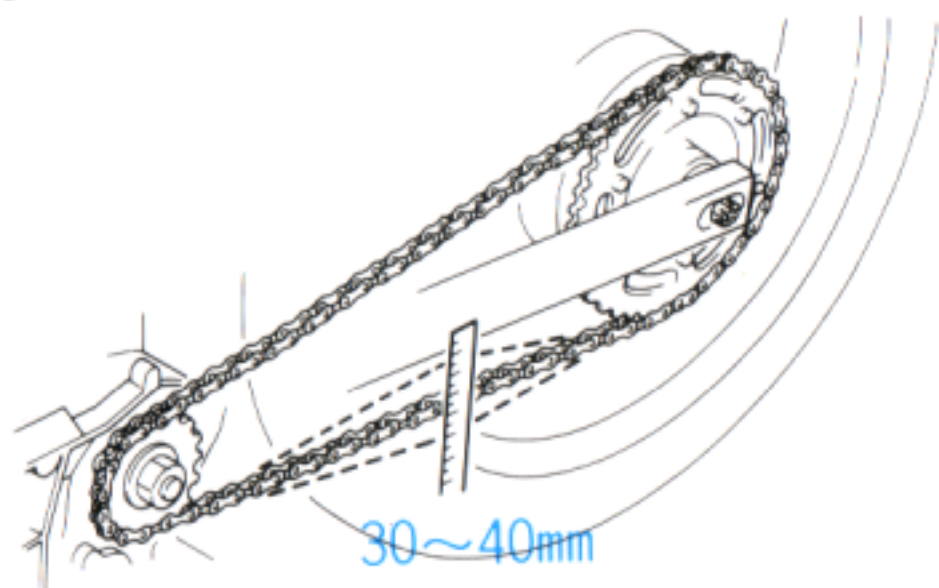
急激な飛び出しに注意してください。

6か月定期点検

E01201

ドライブチェーンの緩みの点検

サイドスタンドを立て前後スプロケット間の中央部を手で上下に動かし、チェーンのたわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検します。また、リヤホイールを浮かして、タイヤを手でゆっくりまわしながらチェーンが滑らかに回転するかを点検します。さらに、チェーンの給油状態を点検します。



E01301

バッテリー液量の点検

この車には、密閉式のメンテナンスフリーバッテリーが装備されています。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異状がある場合はヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

E01400

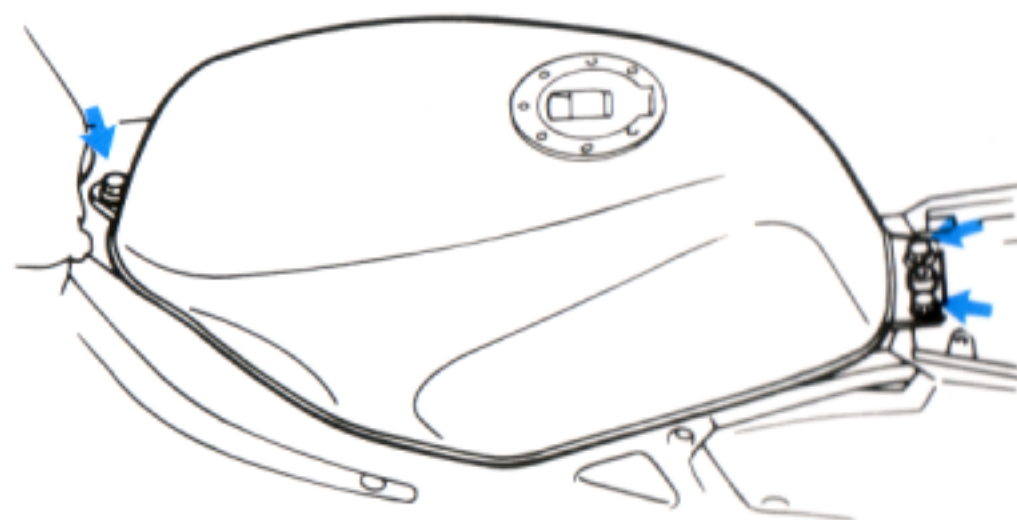
エアクリーナエレメントの状態の点検

エレメントを取り出し、汚れによる詰まりなどがないかを点検します。

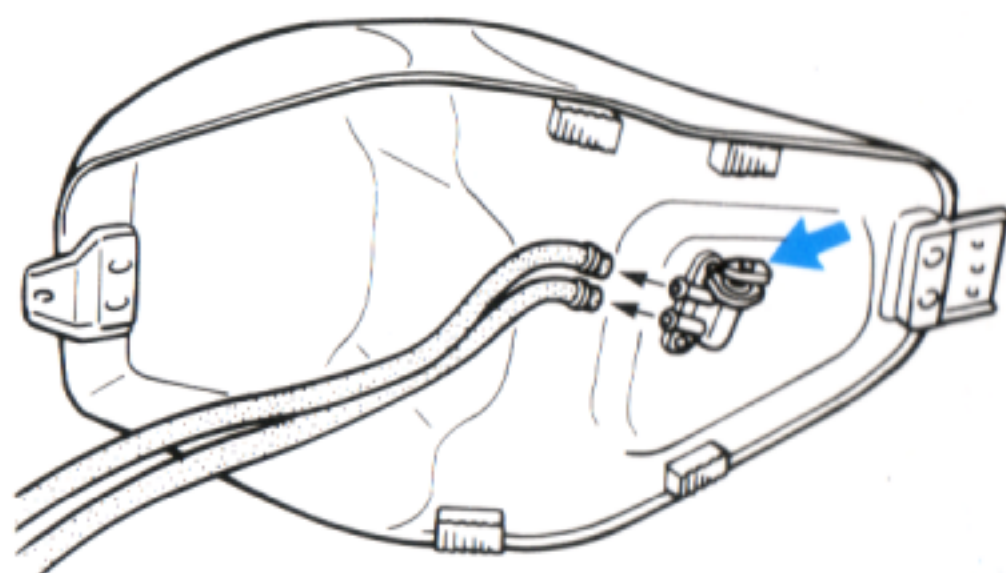
E01514

○取り外し

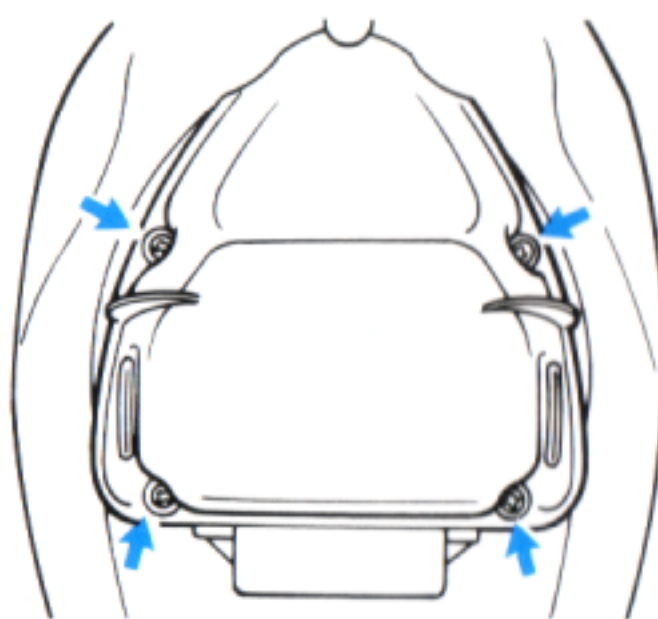
1. シートを取り外します。(19ページ参照)
2. タンク取り付けボルトを外します。



3. サブフュエルコックをOFFの位置にしてフュエルパイプを外し、タンクを取り外します。



4. 取り付けスクリュを外し、エアクリーナケースキャップを取り外します。



E01600

○取り付け

取り付けは、取り外しの逆手順で行ないます。

(エレメントの清掃方法は、38ページ参照)

E01702

トランスミッションのオイル漏れ、 オイル量の点検

トランスミッション周辺からオイル漏れがないか点検します。

エンジンを2～3分間アイドリング運転後、車両を水平な状態にしてエンジンを停止させ2～3分後にオイル量が規定の範囲内にあるかを点検窓により点検します。



オイル漏れがある場合はヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

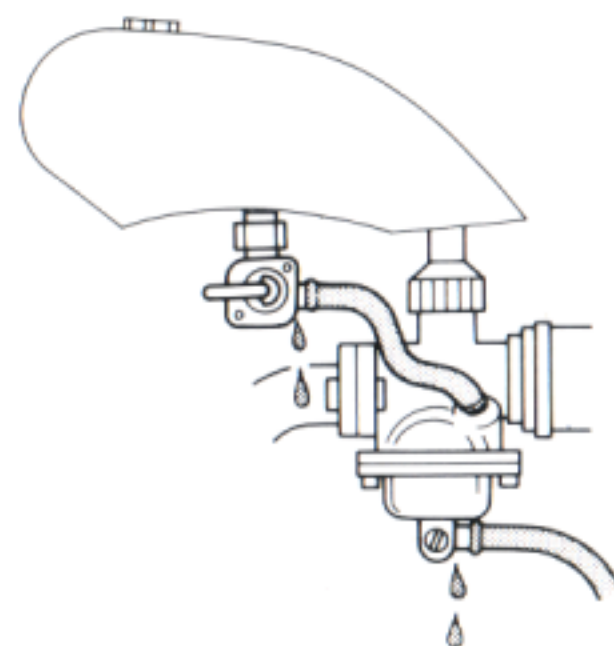
E01800

ガソリン漏れの点検

フュエルタンク、フュエルコック、フュエルホース、パイプ、キャブレタなどからガソリン漏れがないかを、フュエルコックのすべての位置で点検します。

また、フュエルホースに損傷、劣化がないか点検します。

ガソリン漏れやフュエルホースに異状がある場合はヤマハ販売店にて点検・整備をお受けください。

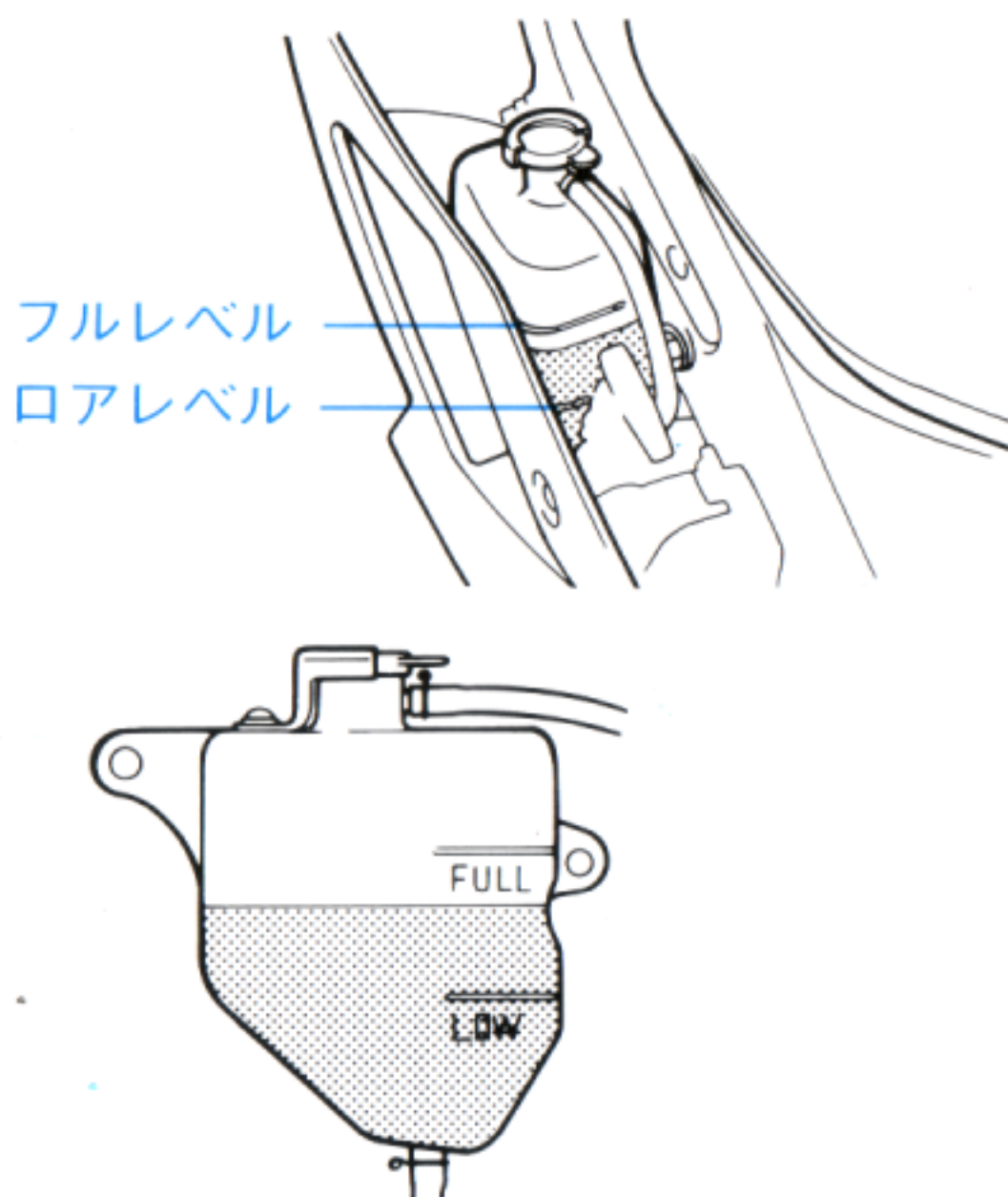


6か月定期点検

E01900

冷却水量の点検

リカバリタンクの冷却水量が、規定のフルレベル、ロアレベル間の範囲内にあるか点検します。



冷却水が不足している場合は38ページを参照して補充してください。

E02000

灯火装置、方向指示器の作用の点検

ヘッドライト、ストップランプ、テールランプなどを作動させ、点灯の良否を点検します。また、ヘッドライトの明るさや照射方向に異状がないかを壁などに照射して点検します。

また、左右のフラッシュランプを作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。

さらにヘッドライト、フラッシュランプ、ストップランプ、テールランプなどのレンズに変色、損傷がないかを点検します。

また、ライトの取り付けに緩みがないかを点検します。

E02100

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が十分であるか点検します。

異状のある場合はお買い上げヤマハ販売店にて点検整備をお受けください。

E02200

＜メーカー推奨 6 か月点検項目＞

定期点検には 6 か月点検、12 か月点検の他にヤマハが推奨する点検があります。

E02400

ディスクパッドの点検 (メーカー推奨)

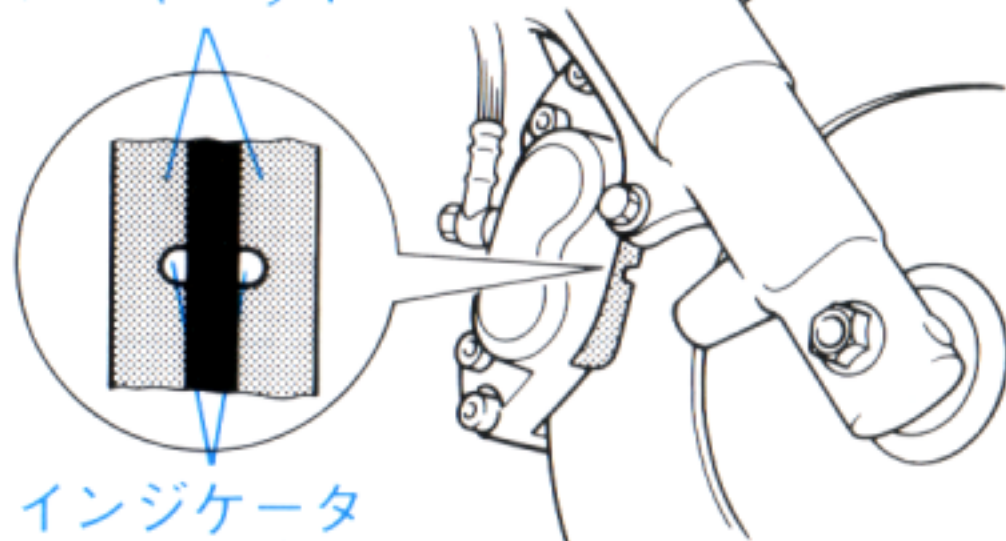
パッドの摩耗状態を点検します。

ディスクパッドのインジケータとディスクプレートのすき間で摩耗の状態を点検します。

インジケータとディスクプレートのすき間がなくなったらヤマハ販売店にてブレーキパッドを交換してください。

＜前輪ブレーキ＞

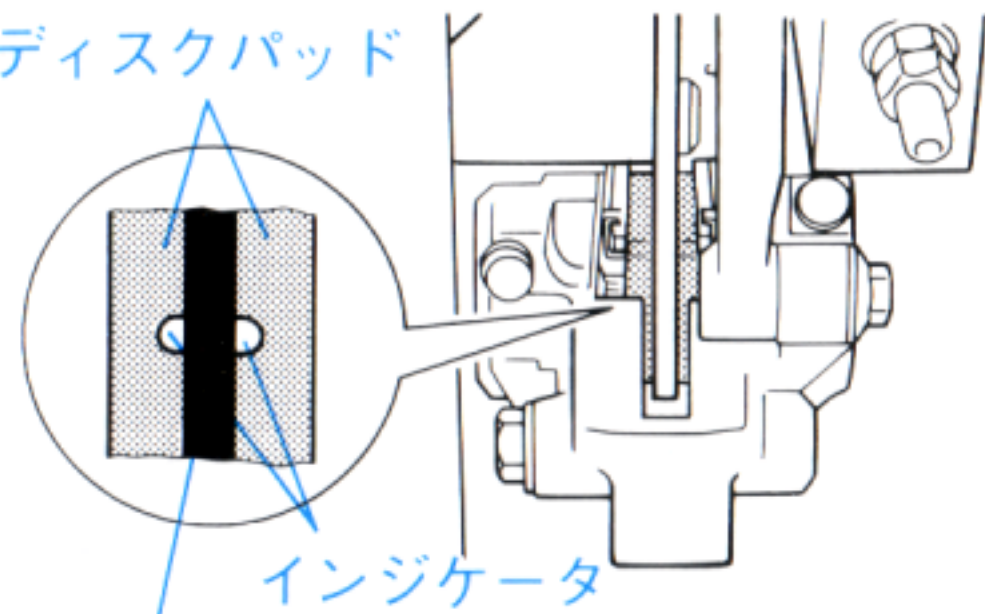
ブレーキパッド



インジケータ

＜後輪ブレーキ＞

ディスクパッド



インジケータ

ディスクプレート

やさしい点検と整備

F00100

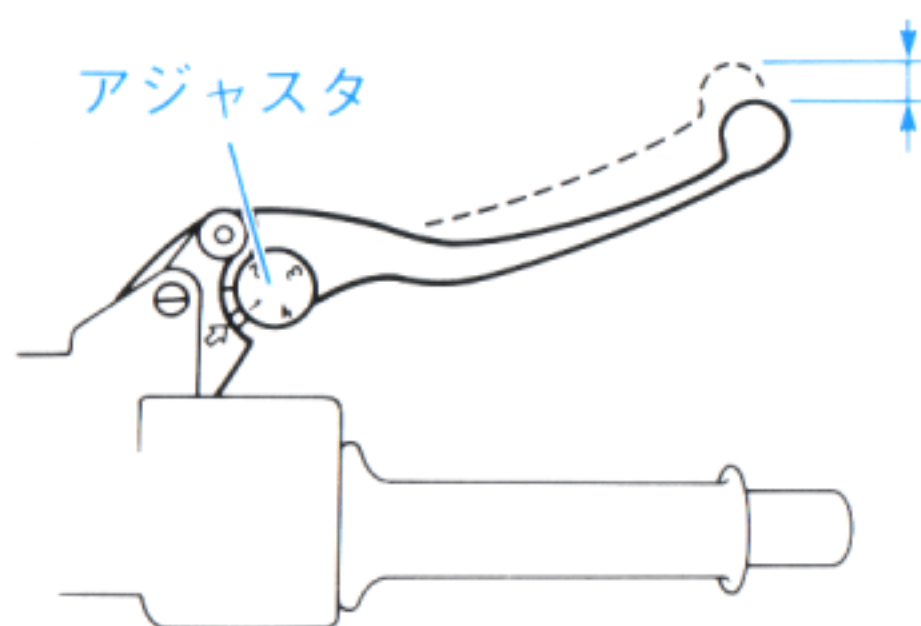
やさしい点検と整備

お車に異状が感じられたら次の項目の点検、調整、清掃を行なってください。それでも異状箇所が見当たらないようでしたら、むやみに自分で整備しないで買い上げの販売店で整備をお受けください。それが安全とお車を長持ちさせる秘訣です。

F00203

ブレーキの調整

ブレーキレバーの握り幅はアジャスタをまわして調整します。



F00400

ブレーキ液の補給

1. リザーバタンクまわりの汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に入らないようにします。
 2. ビスを外し、キャップ、ダイヤフラムを取り外します。
 3. ブレーキフルード液をロアレベル以上補給します。
 4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してビスでキャップを取り付けます。
- 指定フルード…ヤマハ純正ブレーキフルード



T01000

注意

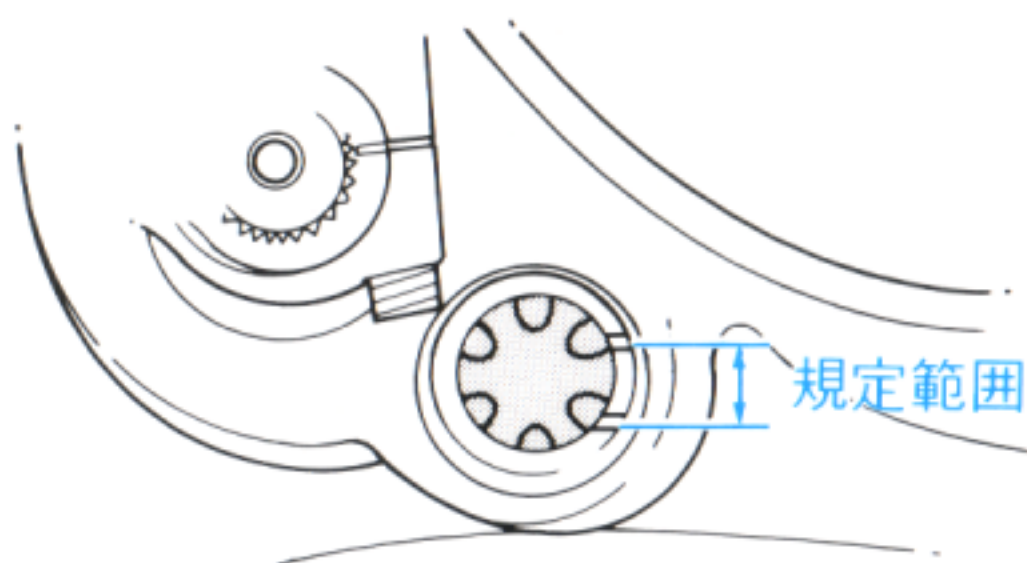
- ブレーキフルード液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水が混入しないように十分注意してください。
- 液面はディスクパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら買い上げの販売店で点検、調整を受けてください。
- ブレーキフルード液と他の銘柄との混合使用はしないでください。
- ブレーキフルード液を塗装面、プラスチック、ゴム類に付着させると部品が腐食することがあります。
- ブレーキフルード液は安全のために1年毎に交換をお奨めします。

F00505

ミッションオイルの補給

1. エンジンを2～3分間アイドリング運転します。
2. エンジンを止めて2～3分後に平坦な場所で車を垂直にします。
3. オイル点検窓でオイル量を確認しながら、オイル注入口よりオイルを補給します。

指定オイル…ヤマハギヤオイル



U00800

注意

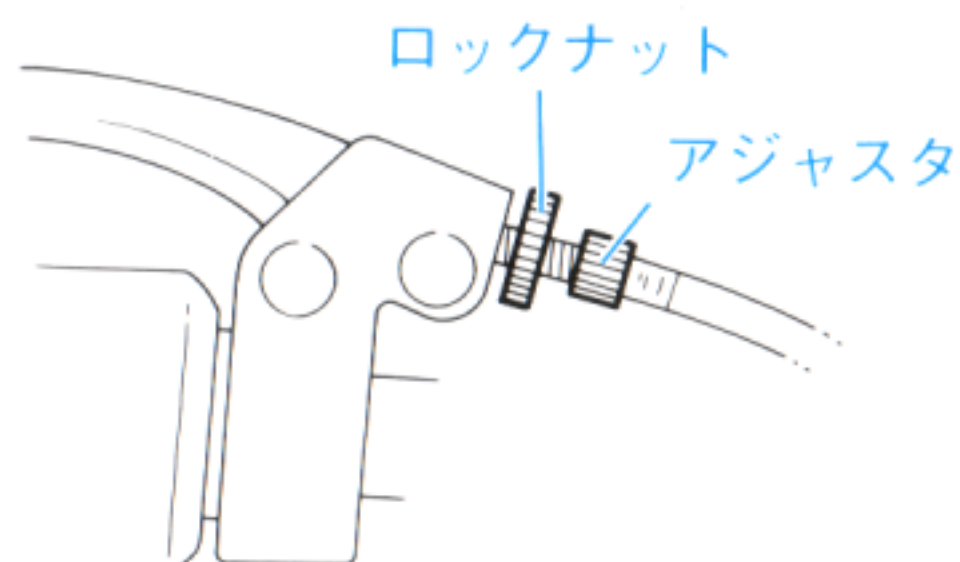


- エンジン暖機運転後の点検はエンジンやマフラが熱くなりますので注意して下さい。
- 油脂類の廃液は法令(公害防止条例)で適切な処置を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ販売店へご相談ください。

F00600

クラッチレバーの調整

レバー先端部の遊びが、10～15mmになるようにロックナットをゆるめアジャスタにて調整します。



S02600

注意

調整後はロックナットを確実に締め付けます。

T01100

注意

- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油を行なってください。ケーブルの寿命が延びます。
- 調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストなどしないか確認してください。なお急激な飛び出しに注意してください。

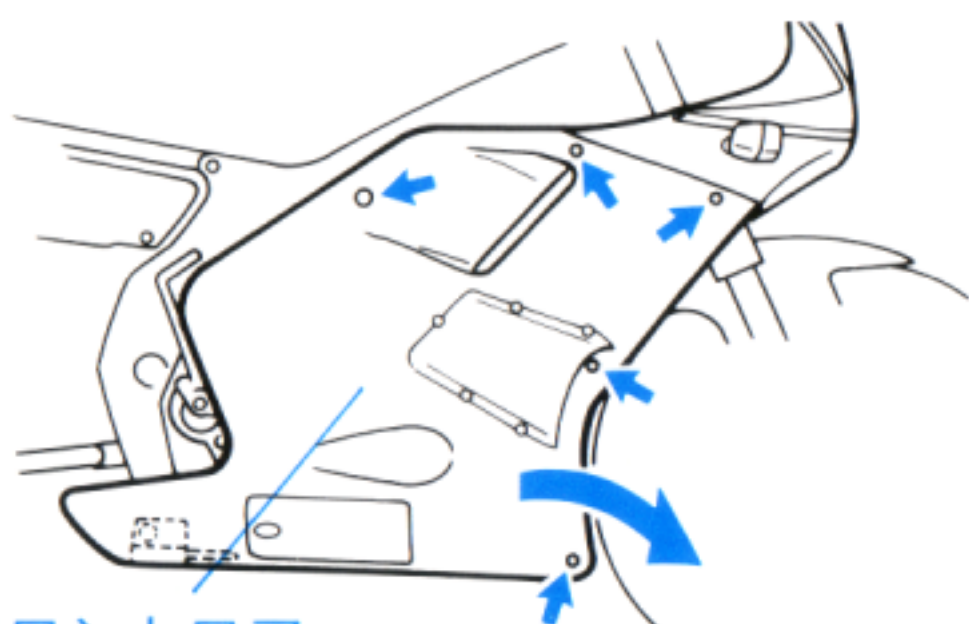
やさしい点検と整備

F00701

フェアリング

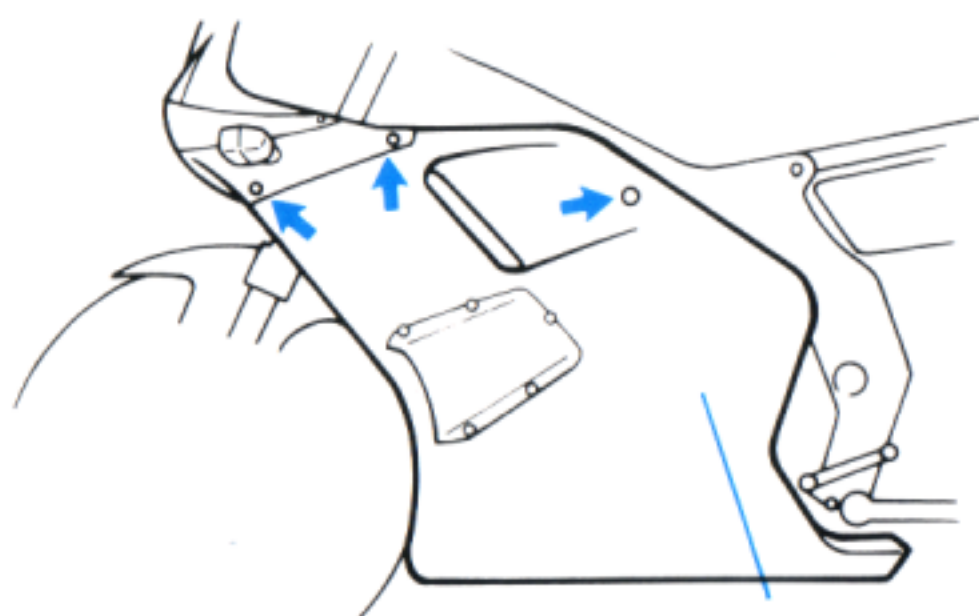
●ロアカウリング取り外し

1. ロアカウリング右の取り付けスクリュを取り外します。
2. ロアカウリング右を外側にスライドさせるようにして取り外します。



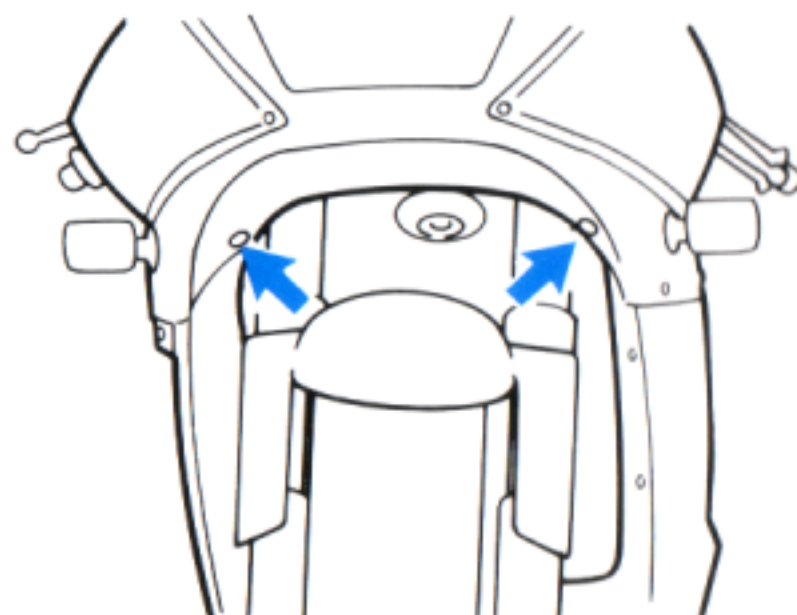
フロントロア
ボディ右

3. フrontロアボディ左の取り付けスクリュを取り外します。

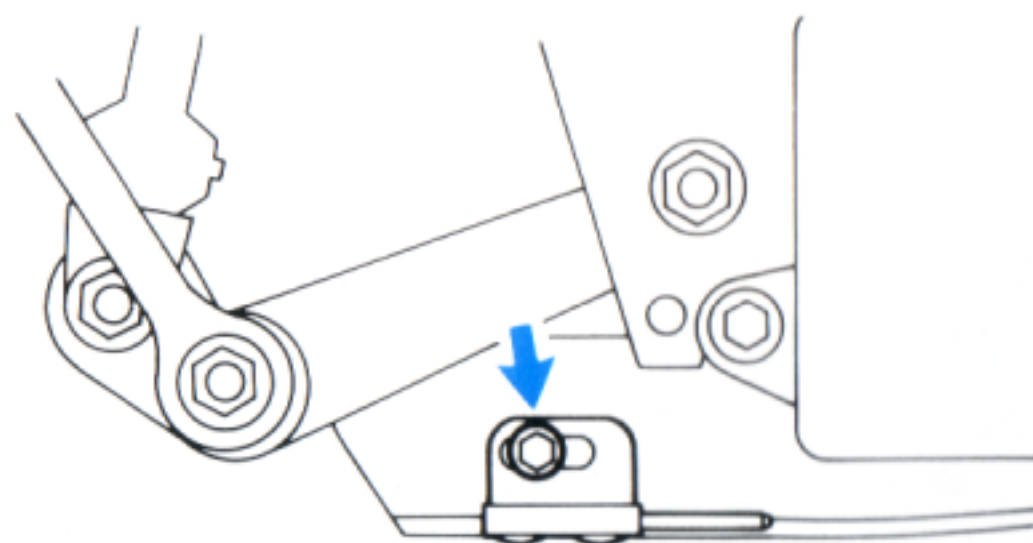


フロントロア
ボディ左

4. インナパネルとボディカウリングの取り付けスクリュを取り外します。



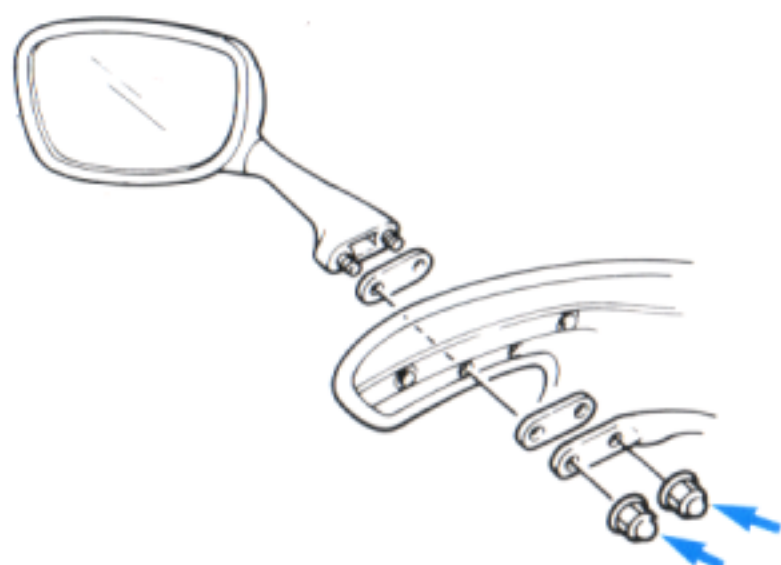
5. フrontロアボディ左、内側のステー締め付けボルトを外し、フロントロアボディ左とインナパネルをセットで取り外します。



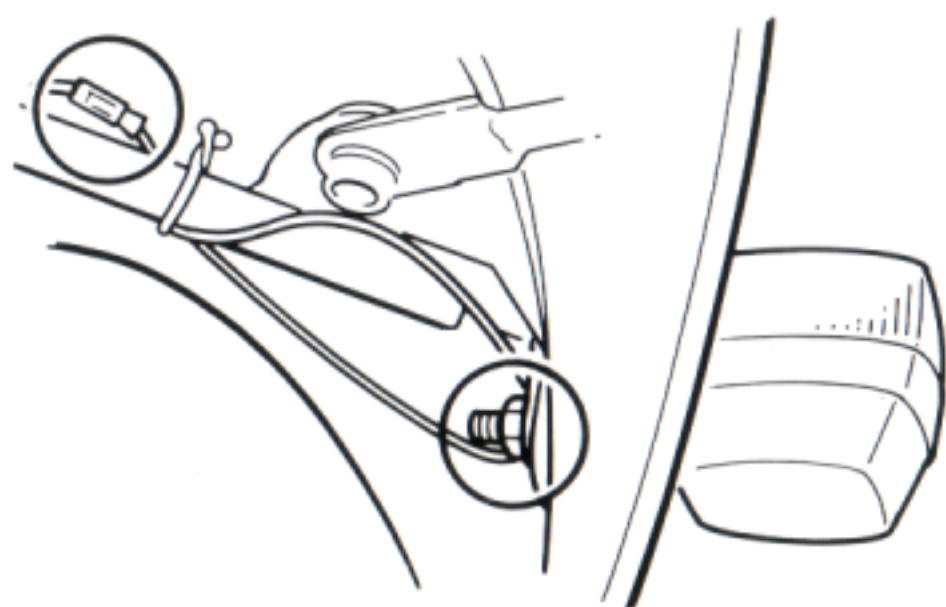
F00900

●アッパカウリング取り外し

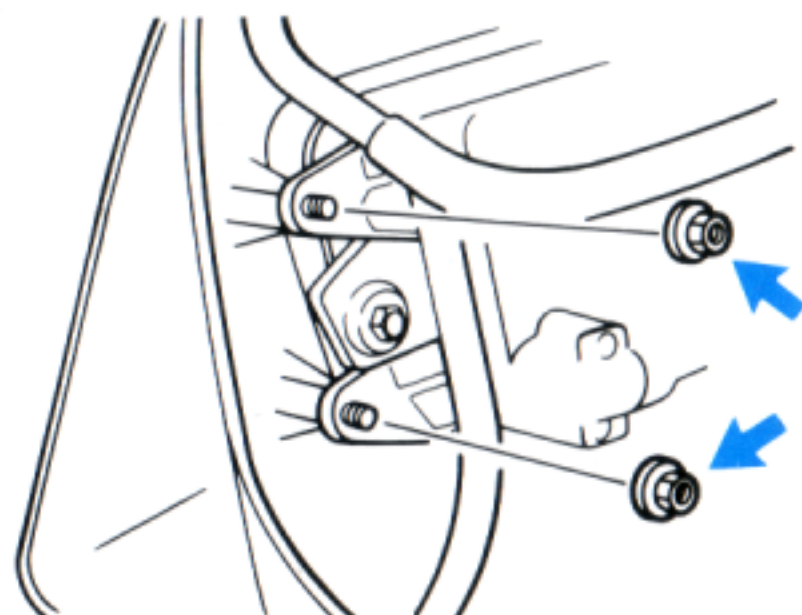
1. バックミラー左右を取り外します。



2. フロントフラッシュャのコネクタおよび取り付けナットを外しフロントフラッシュャを取り外します。



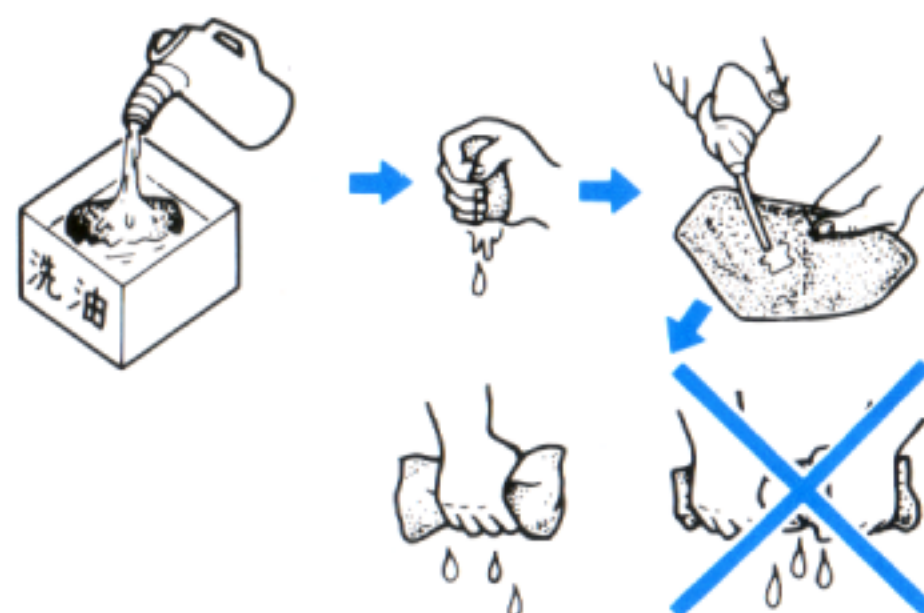
3. アッパカウリング取り付けナット 4本(ヘッドライト共締)を外し、アッパカウリングを前方に取り外します。



F01201

エアクリーナの清掃

1. エアクリーナエレメントを取り外します。(31ページ参照)
2. エアクリーナエレメントをきれいな洗油で洗浄しオートループオイルに浸してから布きれ等で包み軽くしぼります。



T01400

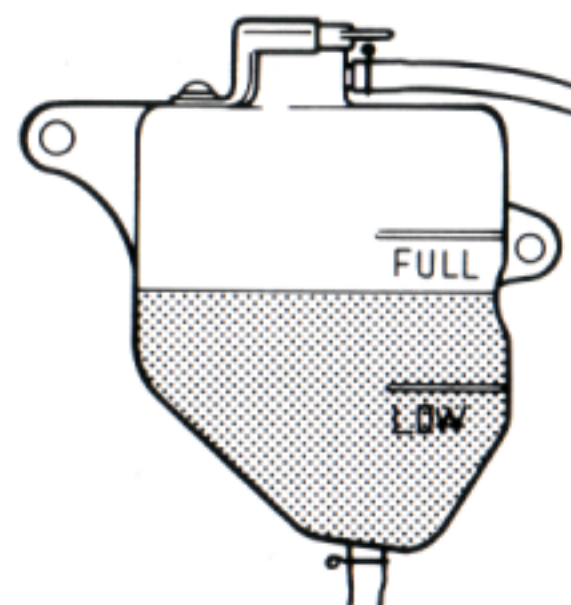
⚠注意

ガソリンや酸性、アルカリ性、有機性の揮発油で洗浄しないでください。

F01300

冷却水 補充

リカバリタンク内の水量を点検しロアレベルより水面が下がっている場合は水道水をフルレベルとロアレベルの間まで補充します。



やさしい点検と整備

T01500

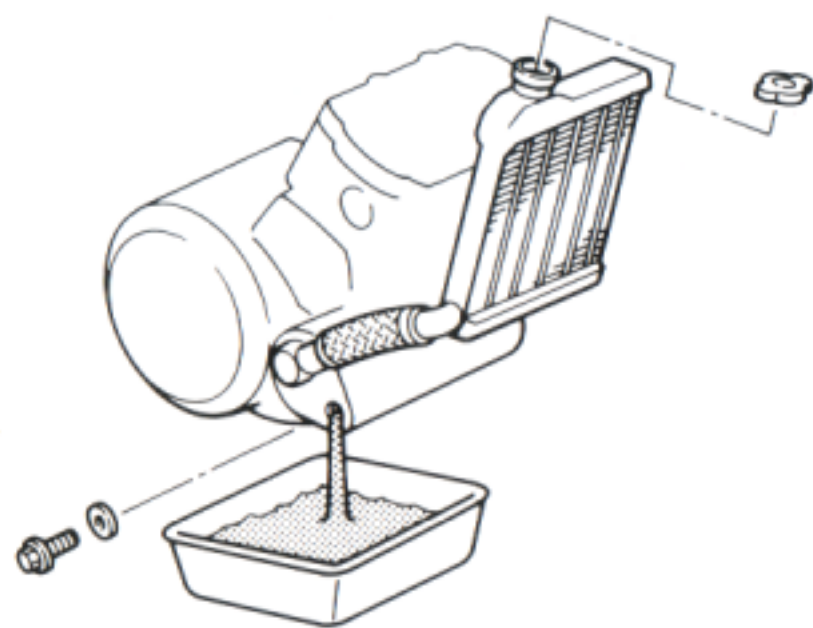
注 意

- 補充する水は水道の水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。
- フルレベル以上入れないでください。
- 冷却水の交換はお買い上げいただいたヤマハ販売店で行なってください。

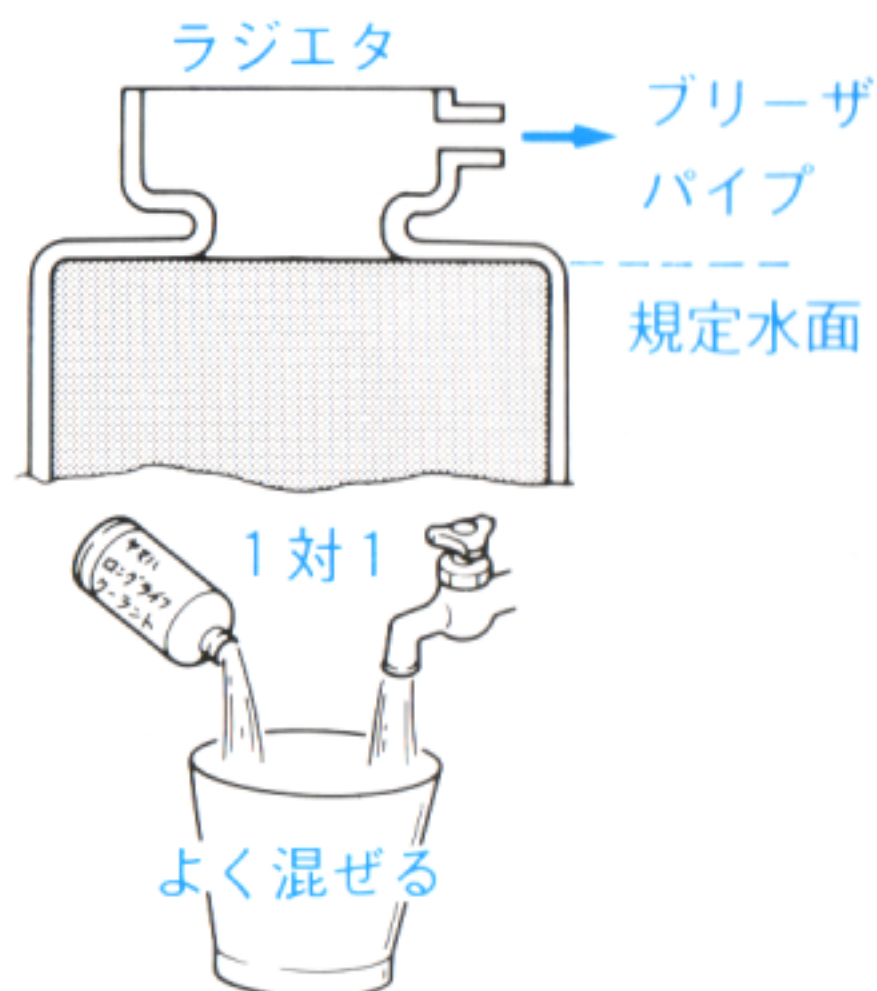
F01400

交換

- ① アンダカウリングを取り外します。
(37ページ参照)
- ② ラジエタキャップを外し、ドレンボルトを取り外してエンジン内の冷却水を抜きます。



- ③ リカバリタンク内の冷却水を抜きます。
- ④ ドレンボルト、パイプを確実に取り付けます。
- ⑤ ヤマハ純正ロングライフクーラントと水道の水を1対1に混ぜ合わせた冷却水をラジエタの規定水面及びリカバリタンクのフルレベルとロアレベルの間まで入れます。



- ⑥ ラジエタキャップを取り付けます。
- ⑦ エンジン暖機運転後、エンジンを止め、エンジンが完全に冷えてからリカバリタンク内の冷却水が規定量あるかを点検します。
ロアレベルより下がっているときは、フルレベルとロアレベルの間まで水道水を入れます。

U00900

⚠ 注意

- クーラント中には毒性がありますので、取り扱いには十分注意すること。
- 目に入った場合
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けること。
 - 皮膚や衣類についた場合
すみやかに水洗いしたのちセッケン水で洗うこと。
 - 飲んだ場合
直ちにおう吐させ医師の治療を受けること。

T01600

要 点

万一車体にかかった場合は、水洗いし乾いた布でふいてください。

F01500

サスペンションセッティング

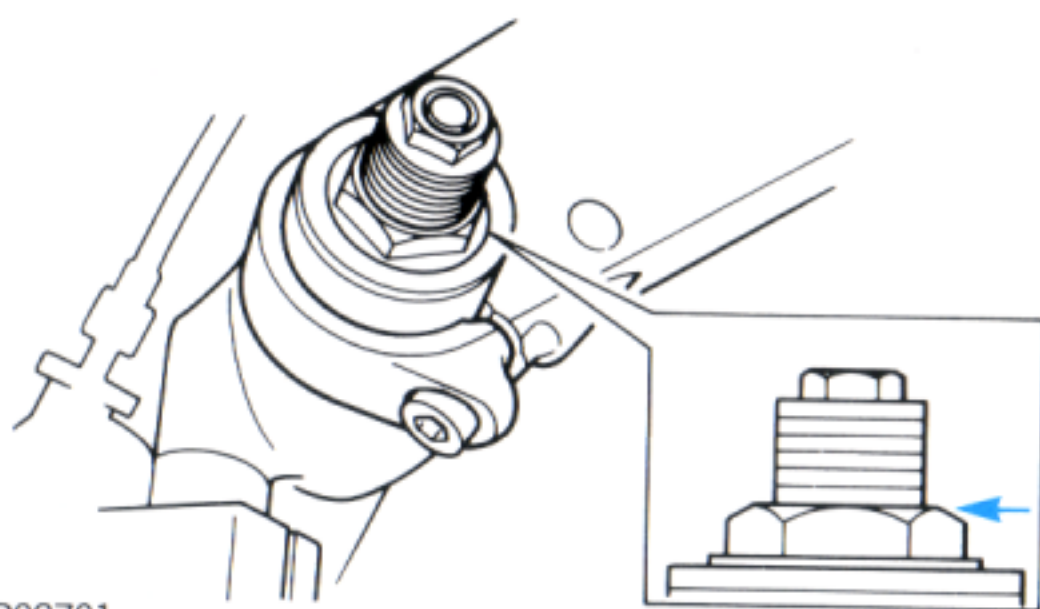
各自の好みや走行状況に応じて調整できます。

F01603

フロントフォーク

○スプリングの調整

アジャスタを回すことにより、スプリング取付荷重を変化させることができます。



S02701

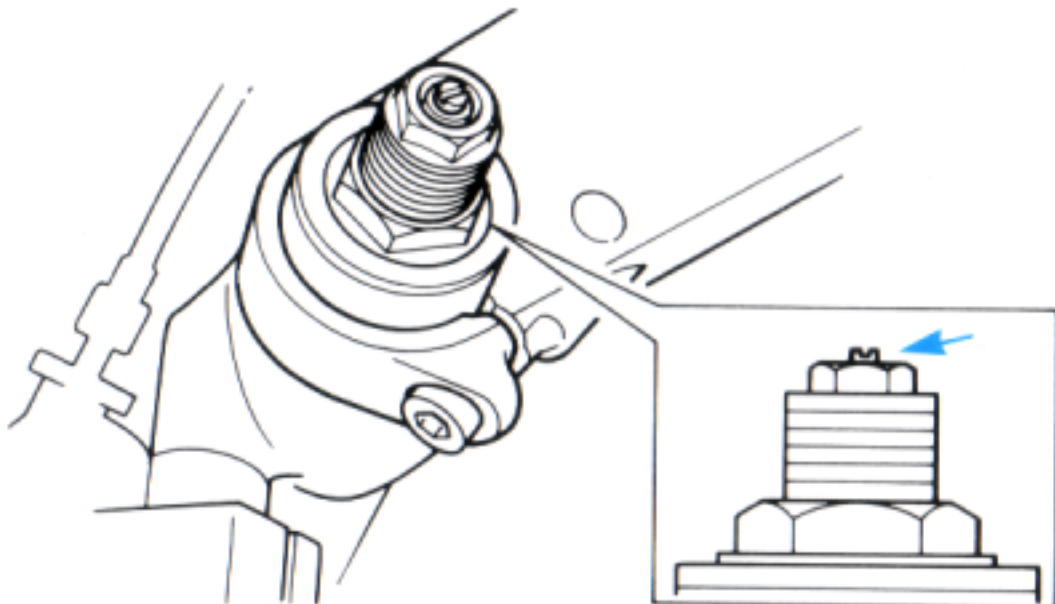
要点

調整アジャスタは左右同じ位置にすること。

F01604

○伸側減衰力の調整〔SP仕様〕

伸側調整アジャスタを回すことによりクッションが伸びるときのオイル抵抗(減衰力)を変化させます。



S02700

要点

調整アジャスタは左右同じ数値にすること。

F01605

○圧側減衰力の調整〔SP仕様〕

圧側調整アジャスタを回すことによりクッションが縮むときのオイル抵抗(減衰力)を変化させます。



S02700

要点

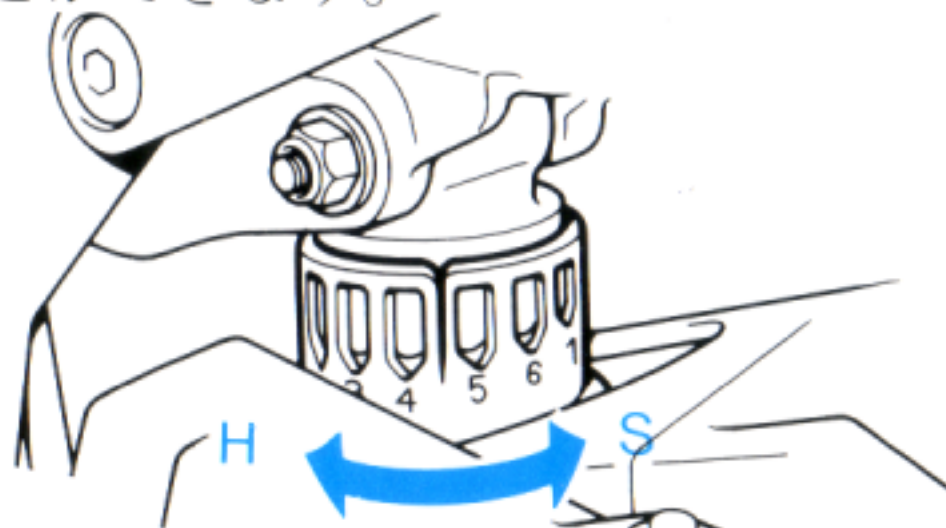
調整アジャスタは左右同じ数値にすること。

F01701

リヤクッション

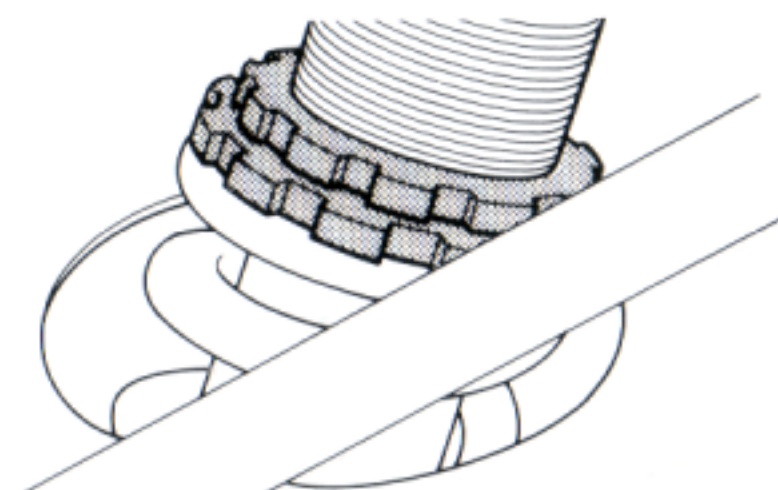
○スプリングの調整

スプリングアジャスタを回すことにより、クッションの強さを変えることができます。



〔SP仕様〕

ロックナットをゆるめ、スプリングアジャスタを回すことにより、クッションの強さを切り替えることができます。

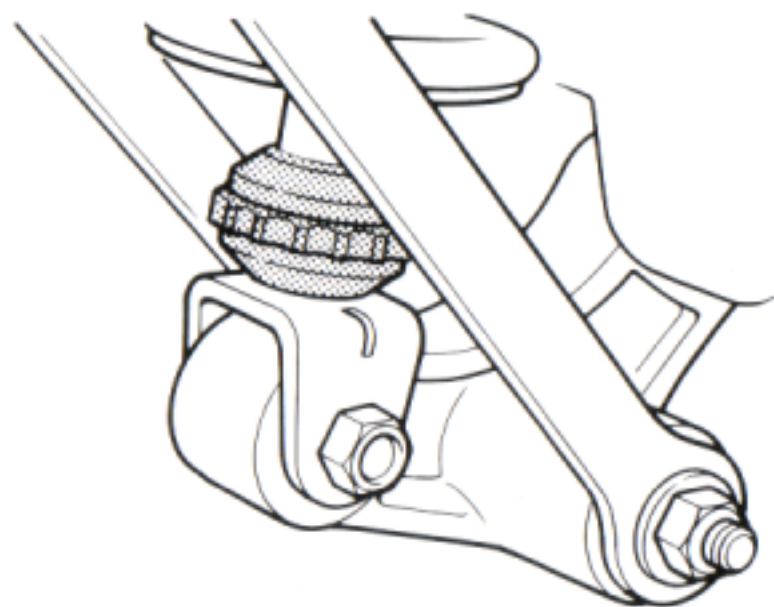


やさしい点検と整備

F01802

○伸側減衰力の調整

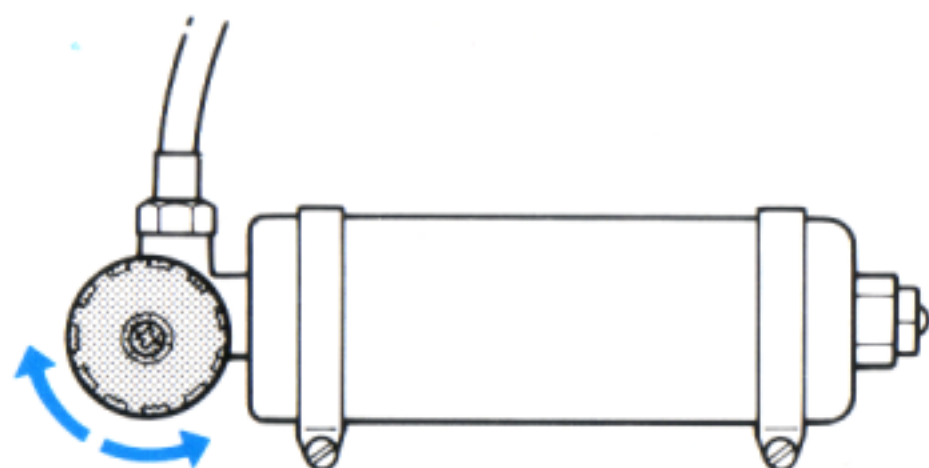
伸側調整アジャスタを回すことによりクッションが伸びるときのオイル抵抗(減衰力)を変化させます。



F01803

○圧側減衰力の調整

圧側調整アジャスタを回すことによりクッションが縮むときのオイル抵抗(減衰力)を変化させます。



U01000

⚠注意

危険！

クッションユニットは、高圧チッ素ガス封入式を使っていますので下記のことは厳守してください。

- 絶対に分解しないこと。
- 絶対に火気の中に投げ込まないこと。
- 廃却する場合は必ずガス抜きを必要としますので、お買い上げの販売店へお渡しください。

T01700

要点

リヤクッションの調整時に異状がありましたら、ヤマハ販売店で点検、調整をお受けください。

F02001

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かした状態で、ホイールを手でゆっくりまわしながらチェーンやスプロケットに付着した泥汚れをやわらかいワイヤブラシなどで落とし、水または中性洗剤で洗浄します。
2. チェンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくりまわしながら、チェーンにオイルを給油します。

T01800

注意

シールチェーンの取り扱い上の注意

- チェーンの洗浄は、水または中性洗剤を使用して洗浄すること。
- 給油はSAE30～50のモータオイルを給油すること。

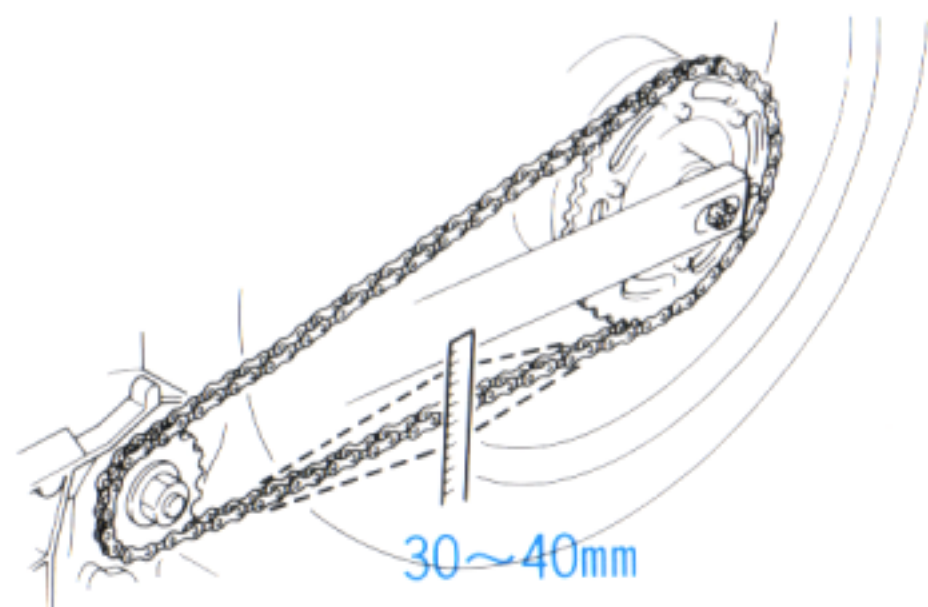
禁止

- 市販のスプレータイプの潤滑油は使用しないこと。
- スチーム洗浄は行なわないこと。
- シンナー、ガソリン等の揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用して洗浄しないこと。

F02100

張り具合の点検

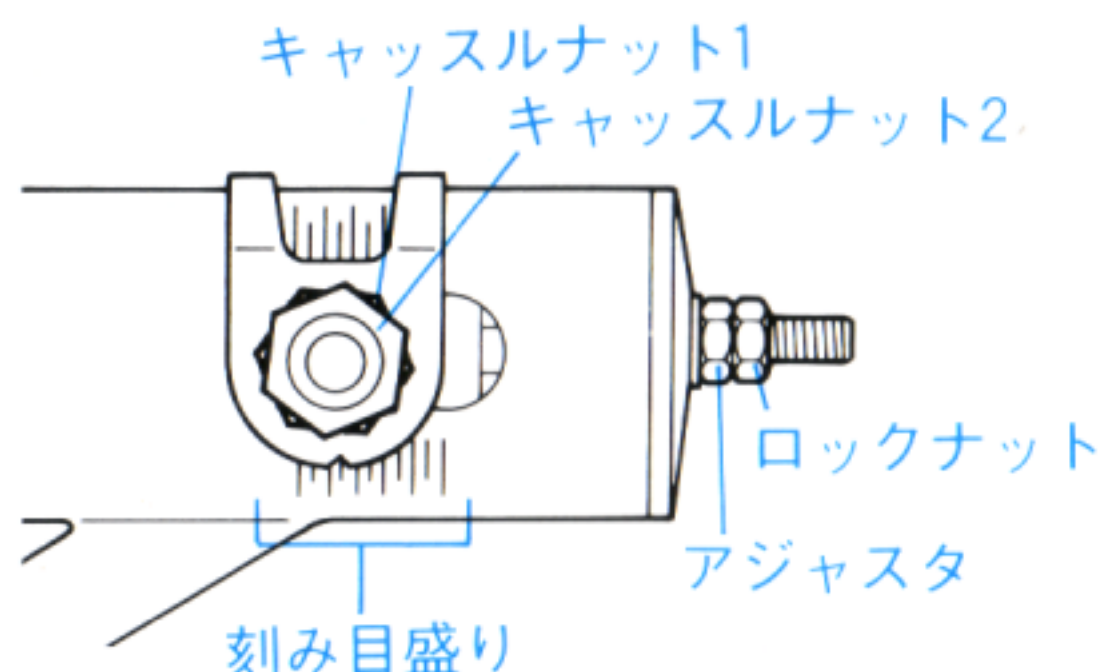
サイドスタンドを立てた状態でチェーンの前後スプロケット間の中央部を手で上下に動かし、チェーンのたわみ量の最大振幅は30～40mmが最適です。



F02201

●調整方法

1. ナット 1、2 をゆるめます。
2. ロックナットをゆるめてアジャスタにて左右均等に締め込みます。(刻み目盛りを左右同位置にします。)
3. 調整後はロックナット及びナット 2、1 を確実に締め付けます。



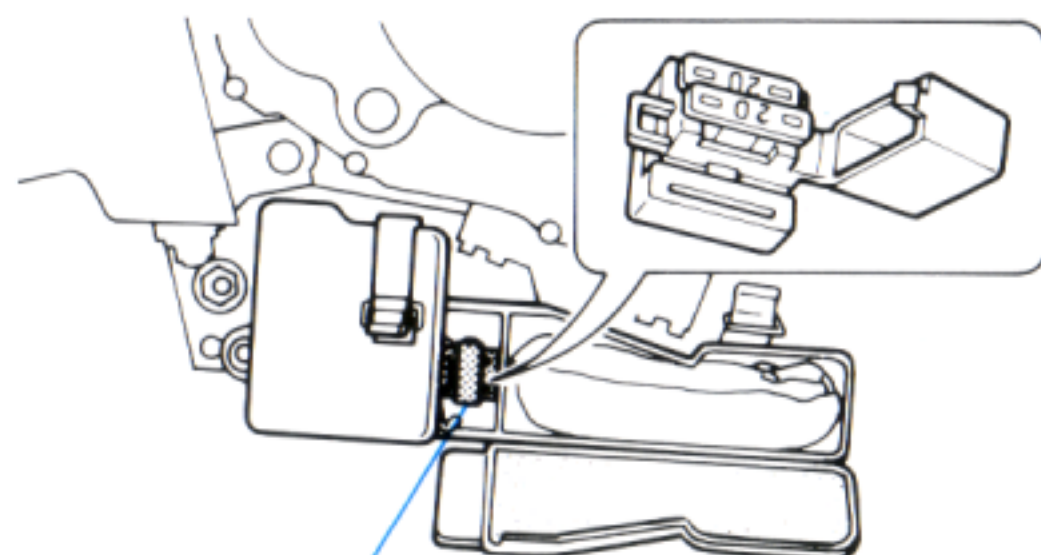
F02307

ヒューズ

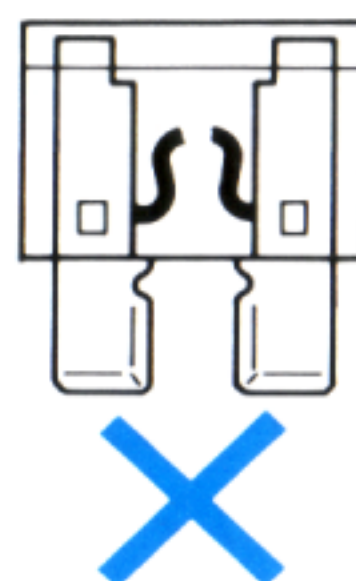
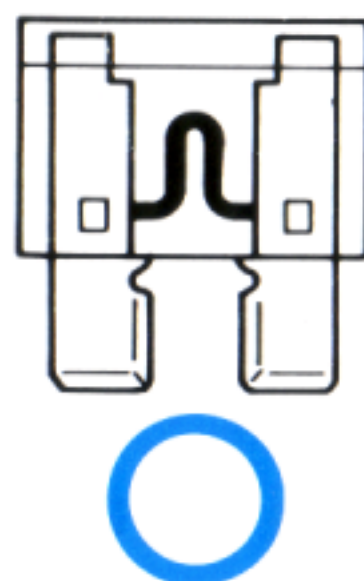
シートを外すとバッテリーバンドにセットされています。

規定ヒューズ…20A

ヒューズが切れたときは原因を調べてスペアと交換してください。



ヒューズボックス



T01900

注 意

- 容量の違うヒューズやヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。
- 電装品類(ライト、計器など)を取り付ける時は車種毎に決められている「ヤマハ純正部品」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。
- 洗車時ヒューズホルダのまわりから水を強く吹きつけることは避けてください。

やさしい点検と整備

F02505

タイヤの点検

空気圧はタイヤの冷えているときに測定してください。

また、この車両はチューブレスタイヤを装着しています。

[] 内はSP仕様

		前 輪	後 輪
タイヤ空気圧	1 名乗車	2.00kg/cm ²	2.25kg/cm ²
	2 名乗車	2.00kg/cm ²	2.50kg/cm ²
	高速走行	2.00kg/cm ²	2.50kg/cm ²
タイヤサイズ		110/70R17 54H	140/60R18 64H [150/60R18 67H]

F02600

●タイヤの溝の深さ

コーナリング、操縦安定性等更に安全な走行のため、一般的に二輪車は、前輪1.6mm、後輪2.0mm以上の深さがあるものの使用が望ましいです。

F02701

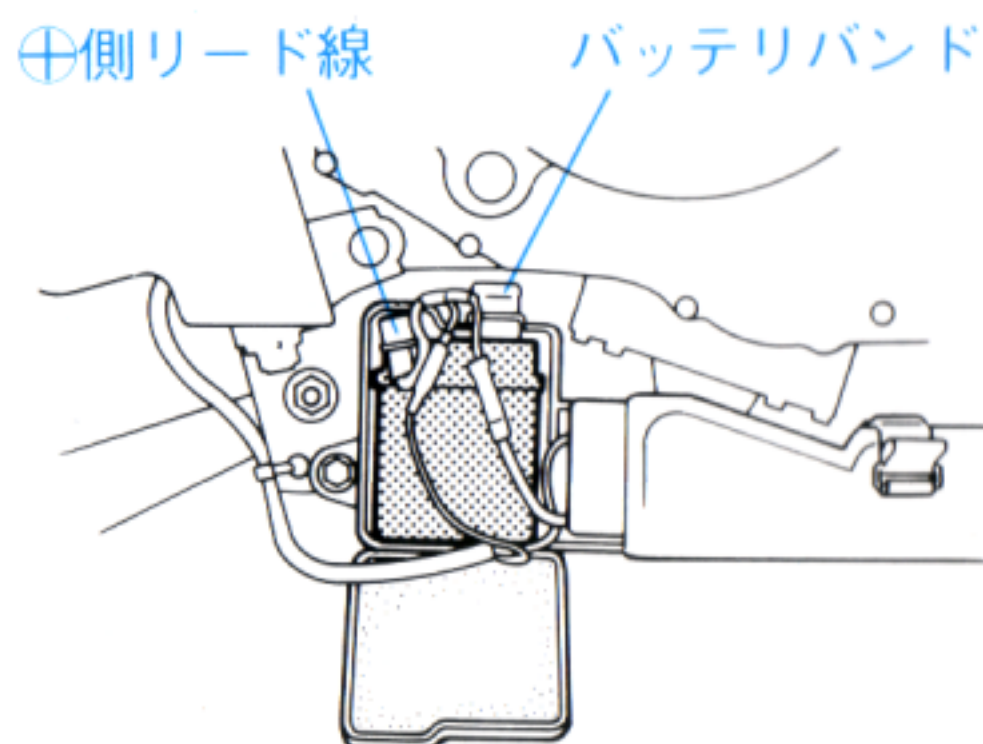
バッテリー

バッテリーターミナル部に汚れや腐食がある場合はバッテリーを外して清掃します。

F02805

●バッテリー取り外し

1. 右側ロアカウリングを取り外します。
2. バッテリーバンドを外しバッテリープレートを取り外します。
3. ⊖(マイナス)側リード線、ブリーザパイプを外し、バッテリーを引き出します。



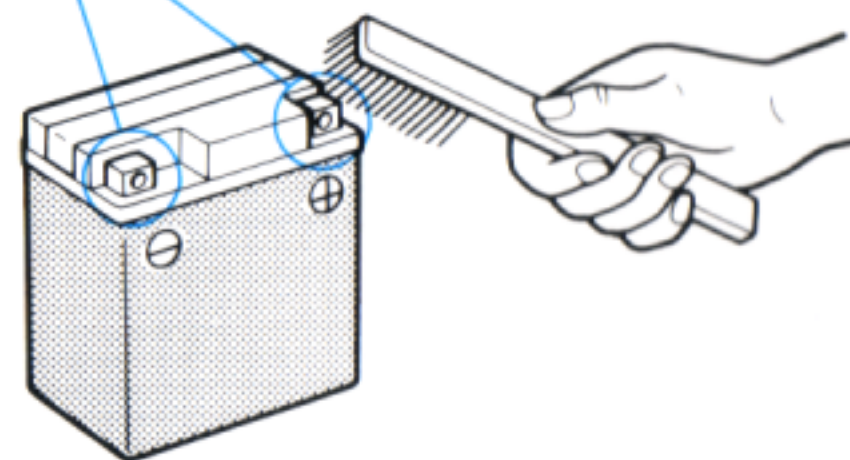
4. ⊕(プラス)側リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。

F02900

ターミナル部の清掃

ターミナル部の汚れや腐食があるときはやわらかいワイヤブラシ等で清掃してください。またターミナル部に白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ってください。

ターミナル



T02000

注 意

清掃後はターミナル部に薄くグリスを塗ってください。

⚠注意

危険！

(必ず守っていただきたいこと)

バッテリーの取り扱いにご注意

バッテリーは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発しけがをすることがあります。

- 火気厳禁＝ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけることは危険(爆発)です。
- バッテリー液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。

応急手当

- 皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で十分に洗ってください。万一、目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。

F03106

定期交換部品について

車の走行距離や時間の経時に伴い損傷、劣化が進む部品の中には外観的に異状がなくても、まだ使用出来るかどうか判断しにくい部品があります。

このような部品は下記に例を示すように機能上重要な部分に使用されており定期的に交換する必要があるため定期交換部品と呼んでいます。

車を安全、快適に使用するため、弊社が定期的に交換することをお奨めします。

例

1. ブレーキ液(1年毎)
2. ブレーキマスタシリンダ及びホイールシリンダカップ及びダストシール(2年毎)
3. 冷却水(2年毎)
4. 冷却ホース(2年毎)
5. フュエルホース(4年毎)
6. ブレーキホース(4年毎)
7. ミッションオイル(6,000km毎)

定期交換部品の交換はお客さまの責任と費用で実施していただきます。

ヤマハ販売店にお申しつけください。

仕様諸元

() 内はSP仕様

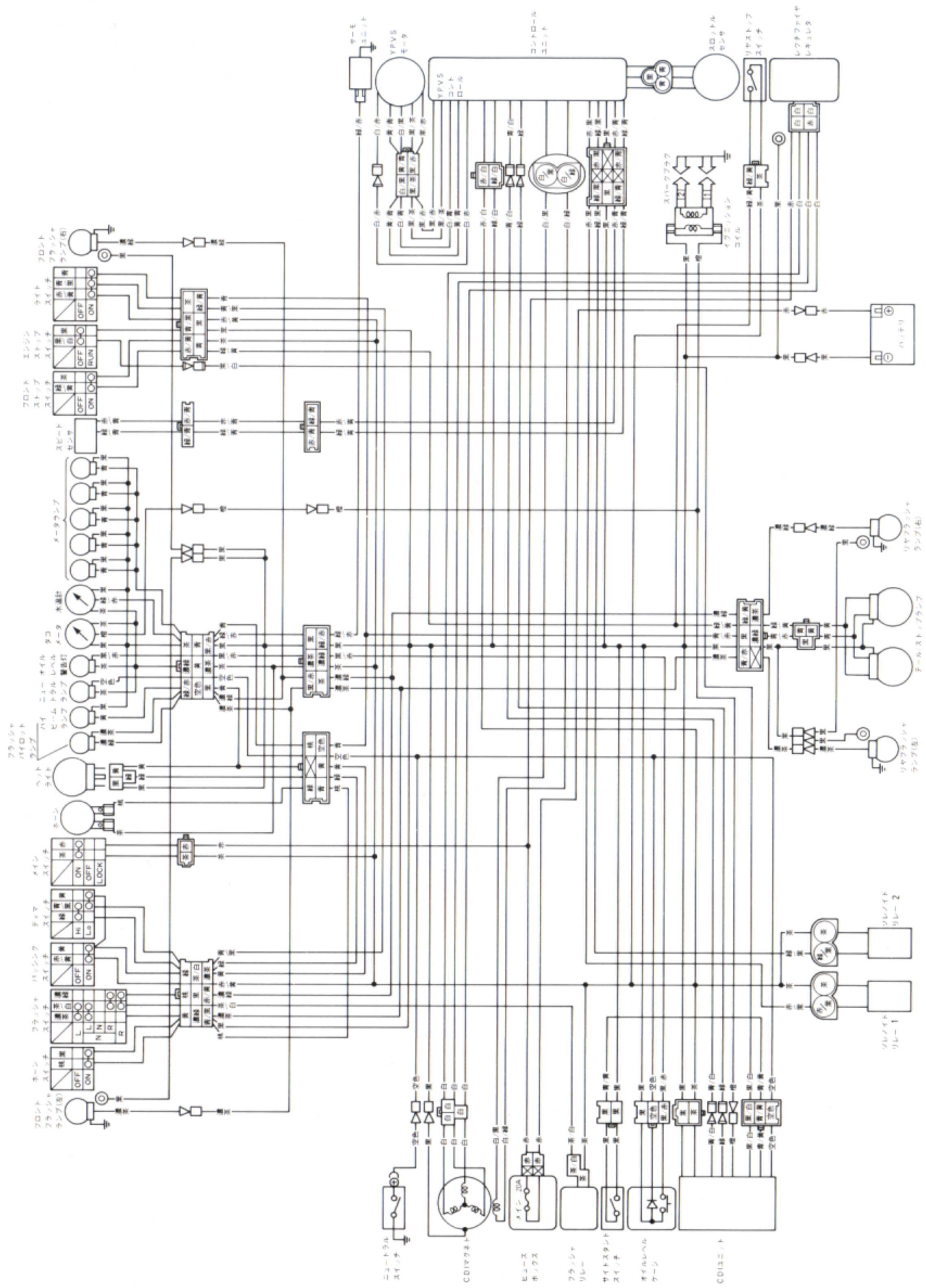
通 称 名	ヤマハTZR250	車 種	フ レ ー ム 形 式	アルミデルタボックスフレーム
車 名 ・ 型 式	ヤマハ・3MA		キ ャ ス タ	25°00'
機 種 コ ー ド 番 号	3MA3 [3MA4]		ト レ ー ル	94mm
寸 法	全 長	2040mm	ハ ン ド ル 切 れ 角	左右各30°
	全 巾	695mm	フ ェ ル タ ン ク 容 量	16ℓ
	全 高	1100mm	ブ レ ー キ 形 式 (前)	油圧ダブルディスクブレーキ
	軸 間 距 離	1380mm	↑ (後)	油圧ディスクブレーキ
	最 低 地 上 高	130mm	懸 架 方 式 (前)	テレスコピック
重 量	乾 燥 重 量	138 [139] kg	↑ (後)	スイングアーム
	車 輛 重 量	159 [161] kg	緩 衝 方 式 (前)	オイルダンパ、コイルスプリング
	前 輪 分 布	79 [80] kg	↑ (後)	オイルダンパ、コイルスプリング
	後 輪 分 布	80 [81] kg	タ イ ヤ サ イ ズ (前)	110/70R17 54H
	車 輛 総 重 量	269 [271] kg	↑ (後)	140/60R18 64H [150/60R18 67H]
	前 輪 分 布	101 [102] kg	第 1 次 減 速 歯 数 ・ 比	61/25 2.440
	後 輪 分 布	168 [169] kg	変 速 歯 数 ・ 比	1速 34/14 [29/14] 2.428 [2.071]
乗 車 定 員	2名			2速 30/17 [26/16] 1.764 [1.625]
	定 地 燃 費 (運 輸 省 届 出 値)	40.0 [41.0] km/ℓ (50km/h)		3速 24/18 1.333
	最 小 回 転 半 径	3100mm		4速 25/22 1.136
	制 動 停 止 距 離	14m(50km/h)		5速 24/23 [24/24] 1.043 [1.000]
				6速 23/24 [20/22] 0.958 [0.909]
原 動 機	最 高 出 力	45PS/9500r. p. m	第 2 次 減 速 歯 数 ・ 比	43/14 3.071
	最 大 ト ル ク	3.8kg-m/8000r. p. m	ヘ ッ ド ラ ン プ	12V60/55W(ハロゲン)
	原 動 機 種 類	2サイクル、水冷、クランク室リードバルブ	ス ト ョ ッ プ / テ ー ル ラ ン プ	12V21/5W×2
	気 筒 数 ・ 配 列	2気筒横置	フ ラ ッ シ ャ ラ ン プ	12V10W×4
	総 排 気 量	249cm ³ (cc.)	メ ー タ 灯	12V3.4W×5
	内 径 × 行 程	56.0×50.7mm	バ イ ロ ッ ト ラ ン プ	速 度 警 告 灯 12V3.4W(メーカオプション)
	圧 縮 比	7.4 [8.0] :1		ニ ュ ー ト ラ ル 12V3.4W
	圧 縮 圧 力	7.0kg/cm ² -700r. p. m		フ ラ ッ シ ャ 12V3.4W
	エ ア ク リ ー ナ 形 式	湿式ウレタンフォーム		オ イ ル 12V3.4W
	ク ラ ッ チ 形 式	湿式多板 [乾式多板]		ハ イ ビ ー ム 12V3.4W
	ミ ッ シ ョ ン ・ チ ェ ン ジ 方 式	常時噛合式前進6段		
機	始 動 方 式	キック		
	点 火 方 式	C.D.I		

定地燃費は定められた試験条件のもとでの値です。従って走行時の気象、道路、車種、整備などの諸条件によって異なります。

<注意>ランプ類が点灯しないときはヒューズ切れの他、電球自体の球切れが考えられます。電球の交換は正規の規格に合せて同容量のものを使用してください。正規の規格(同容量)以外のものを使用すると、球切れ、作動不良等の原因となります。

オ イ ル	交 換 時	900cm ³ [800cm ³] (cc.)	フ ホ イ ン ト ル	パ ッ ド の 厚 さ	5.5mm		1 名 乗 車	前	2.00kg/cm ²
	O / H 時	950cm ³ [850cm ³] (cc.)		パ ッ ド の 摩 耗 限 度	0.5mm インシケータ付			後	2.25kg/cm ²
冷 却 水 量	エ ン ジ ン / ラ ジ エ タ	1300cm ³ [1490cm ³] (cc.)	リ ホ イ ヤ ル	デ ィ ス ク の 厚 さ	5.0mm	タ イ ヤ 空 気 圧	2 名 乗 車	前	2.00kg/cm ²
	リ カ バ リ	330cm ³ (cc.)		デ ィ ス ク の 摩 耗 限 度	4.5mm			後	2.50kg/cm ²
	全 容 量	1630cm ³ [1820cm ³] (cc.)		パ ッ ド の 厚 さ	5.5mm		高 速 走 行 (1 名)	前	2.00kg/cm ²
ラ ジ エ タ 開 弁 圧		0.75~1.05kg/cm ²		パ ッ ド の 摩 耗 限 度	0.5mm インシケータ付			後	2.50kg/cm ²
ド ラ イ ブ チェ ン の 張 り 具 合		30~40mm	ホ イ ー ル ト ラ ベ ル	前	125mm	バ ッ テ リ	型 式	YT4L-BS	
ク ラ ッ チ レ バ ー の 遊 び		10~15mm		後	120mm		容 量	12V3Ah	
ブ レ ー キ の 遊 び		前 2~5mm	フ ロ ン ト	オ イ ル 量	326cm ³ [329cm ³]	点 火 時 期		BTDC21°/1300r. p. m	
フ ホ イ ン ト ル	デ ィ ス ク の 厚 さ	4.0mm	フ ォ ー ク	オ イ ル 油 面	190mm [180mm]	ス パ ー ク プ ラ グ	型 式	BR8ES, BR9ES, BR10EV	
	デ ィ ス ク の 摩 耗 限 度	3.5mm					ギ ャ ッ プ	0.7~0.8mm	

電装配線図



A00200

こんなときは、このページをご覧ください。

- エンジンがかからないときは…………… P 20
- 走行中オイル警告灯が点灯したときは…………… P 12
- 走行中ガソリンがなくなったときは…………… P 17
- ランプ類が点灯しないときは(ヒューズ切れ)…………… P 42
- ランプ類が点灯しないときは(電球切れ)…………… P 45
- ブレーキのきき具合に異状があるときは…………… P 35
- こまったときの連絡先

①あなたの街のあなたのお店

②整備手帳巻末のサービス網をご覧ください。